

雅語纂解

天





雅語の解

十二巻

新編

源氏物語の解

菅原経文撰

天保五年三月十日成る

この書は源氏物語の辭書にして

その中に源氏物語の辭書にして

社の神宮の御書に雅の書あり

のものとありし作しものなり

天保五年七月發行





源語雅言解



○いぢやあよいし 俗言ニ是ハ何トシヤウツト  
云意ニ萬葉ニ計不知所出ヲイカサマモテ  
点セリサレバおぼゆるゆか 又  
しテ悪テハ心モアリ前後ヨヨ見テ心ニ  
味ヒテ知ル也

○いしどろろ 忌ジウ之甚シキ大更ルルイ  
ミツシムヨリ出テ本ハ神ニキテ云語ナルガ  
轉メ善思氏甚シキ取ニ云ル語ニ

○いづづ〜ハイタハリカシツリテ大更充テ云

○いひそ〜云ヒスズス之大ゴノ及リ

○いひすげき〜善思氏ニ向ノ人ノ弥進  
ヤウニ云テスヲ云

○いすやいす〜同ジイカハ不知書テイナ  
ト意同ジ俗言ノドウジヤヤウ

○いひあ〜いひつ〜ト云語ノミラフニ

○いふせき 萬葉傳トモ樹怱怱怱怱  
大方イブセシイブカシオボツカナシ又オボシ  
四ハ本ツ言ト聞エテ意七同シ故萬葉ニ通メ  
共ニ樹怱怱ト書リ右ノ四ノ言後世ハ各々  
意異ナルガ如クナルハ後ニオノツカラシカ別シ  
タル之書紀ニモ怱文無怱矣ト有テイキドホ  
リナシト訓リソレモヨシ万葉十九伊伎騰早  
流心ノ裏ヲ思ヒ延ナトアリイキドホルトハ後  
世ハ夕心怒ヲ云ト怒ヲ云ニニアラズ怱モ  
怱ノ字ノ意ニ怱ノ字書ニ不安也トモ憂也也  
註セリ古事記朝倉宮段ニ不怒於怱怱ト又  
イタツキ体ノ詞身ヲ旁スルヲ云アリ又矢尻  
ヲ云イタツキモアリ和名抄征戰具平頭箭  
揚雄方言云鏃不銳者謂之平頭都岐云  
頭猶頭也今之戲射箭也延喜式内

○イタツキ体ノ詞身ヲ旁スルヲ云アリ又矢尻  
ヲ云イタツキモアリ和名抄征戰具平頭箭  
揚雄方言云鏃不銳者謂之平頭都岐云  
頭猶頭也今之戲射箭也延喜式内



同リ他対揚スル意テいひ志スル他下我ト互ニ  
 梓弓一張矢四具 一具大角伊大豆夜一具函袋宿  
 一具大木伊大豆夜一具ハナク伎  
 云ニアフテ直ニト云意之書紀有意味ト訓又  
 ○いむし書紀并世云善信阿尼等謂大臣曰  
 出家之途以戒為本願向百濟學受戒法都  
 事之受戒スルヲ云  
 ○いづこをせりハカリハカギリノイツヲ限  
 量セントモオボエヌ俗ニ定キヲハカリテ云ハク  
 リニ同ジドコヲアテテト云意ナリいづこをせ  
 ルト云モ同ジサレド大方ハ墓ヲケテ云ル多シ  
 ○いづハサツ語ノイサクサレト心ノ進折ノ  
 発語ノイデニ似テスム心ノ甚キイサカカタ  
 ○いづこをせりハ戦ヲイドムナド云同リカク  
 此ニ精カナ尺マケジトキツヒアラソク意ニ  
 いくまをりハ戦ハのイカニサツト云  
 ト同語ニサツハカクシクキトシタレ返答有  
 キトタラフ云ハイカテライカテカト云意ニ  
 ミルハワロシ近キ世ノ哥ニサツトヨムヲ古ノ  
 哥文ハニナイカニト云リ心エオクベシ

○いづいづハネギタナクテネズキヲ云惣メ  
 いハ瀧ルヲ云いづいと目サトキ同クウチト  
 ケネヌヲ云阿キハ朝鮮ノルイハハ  
 と如クナドハイネイヌノ中間ニテニヲハヌ入テ  
 ナダラメ云

○いづくハせんハお母ハゆるユハイカハセシヲ  
 言ニシタレモ今更詮方ナシツコウデモト云  
 志ナリ  
 ○いすのふりハ萬葉三山の篇ヲ名知世後月  
 の出ツトスル月シバヤスラフヲ云入月モ入シ

トシノシバ有ホドヲ云サモシ濁ルカラス人ノ上ニ  
 云イサヨヒハ物ノトホホルヨリウツリテ心ノ動キ  
 定ラヌヲ云

○いしわハ只カハキトキノドクカハユツウナル  
 意トイサカノケテメアリ崇峻紀哀不忠  
 聰白文思愛子  
 ○いひふき言觸之觸ハ當意ニテ云ヒヨリ云ヒ  
 カリ同シ云ヒキカセ云ヒ合ヒ相談スルヲ云

○いづハムナシキヲ云俗言ノムダヒマアリ  
 カヒナキ名用ナド云意又死ヌルヲモ云イタツ  
 ライネハムナシキ独不ヲ云ヌのいづハム  
 ぬらぬをくハ死ヌルヲ云

○いさよりのよハ世風ノハテナルヲ云  
 郡縣小吏用敏有材者親自饒屬遺諸宗師  
 受業博士数歳蜀生皆成就還帰為右職  
 師古云郡中高職也必竟學同成就者

○いしむハ白蛇ノ氣ヲ吹其毒ハ乳ニラルヲ云  
 其如ク死人ノ氣ニラルヲ云今云踏合ヒケレ  
 ○いり阿ヤのほハ舞ニ樂屋ノ入ニトメ更  
 取テ返テ面白ク舞ヲ云時多クニハハハハ  
 ころ和ん入阿ヤのころをハハハハハハ

○いしむハ白蛇ノ氣ヲ吹其毒ハ乳ニラルヲ云  
 其如ク死人ノ氣ニラルヲ云今云踏合ヒケレ  
 ○いり阿ヤのほハ舞ニ樂屋ノ入ニトメ更  
 取テ返テ面白ク舞ヲ云時多クニハハハハ  
 ころ和ん入阿ヤのころをハハハハハハ  
 いしむハ白蛇ノ氣ヲ吹其毒ハ乳ニラルヲ云  
 其如ク死人ノ氣ニラルヲ云今云踏合ヒケレ  
 ○いり阿ヤのほハ舞ニ樂屋ノ入ニトメ更  
 取テ返テ面白ク舞ヲ云時多クニハハハハ  
 ころ和ん入阿ヤのころをハハハハハハ







○いさりのそむ上ヨリイタリ惠ミテ○いきりーイサカシト云語ハナシ来ト云ニ

加階スル一ヲ云家ヨリイタリノムニ非ス カシハノ允語之

上ノカグミノアツキヲ云須ニテ卷ニ奏シ玉フ○いふりひびきムゲニサケナク不才テラテ

フノ成ヌハナカリカバ御イタハリノホドナ ノアカヌヲ云コハ人ノ上ヲ云又云テモカヘラヌ甲

浅カラズ云々世イタリニ同シ 斐ナキ一ヲモ云

○いぐで願ノ語之俗言ノドウガナシテト云○いゝゝ痛之萬葉ニ多ク世字ヲ書リ又

ニ同シ 甚ク字疾ノ字ナドヲモ書リ又イタノモ

○いもせ仁賢天皇紀ニ於母亦兄於吾示 子輕太子ノ御哥ニ伊多那加波ト是

兄弱弟吾夫何咎矣コノ古註ニ古者不竟 之痛也萬葉ニイト云ニモ痛字ヲ書テ同シ

弟長幼女以男稱兄男以女稱妹夫ヲセト云 意之但シ語ノツキヨリテイタクト云ベキ

妻ヲイモト云ハイザナギイザチニ御妹兄夫 取トイト云ベキ取トハ異ニヨリ味フテ用之

妻ト成至モシヨリ始リテ後ニ他人トテ夫 ○いほ種々アリニ六字ノ如ク常ニ云今ニニ六

婦トナレルヲモシカ云ヒナラヘルコ 今ツナド云テ有ガニ猶添下スルヲ云ニツ

○いひもてゆげバ段々道理ヲオシテ云テ 八將然ツナ近キヲ云俗ニヤカテトモ追付トモ

ニシバノ意ニモテユクノ意ニ十同シ 云今帰リユナド云是ニ四ツ今早クト催ニ

○院司トシヨリ拾苴抄云院司別當執 云是ニ五ツ今者ト云テ今ハ是ゾ限リト云

事ニ預判官代殿上人藏人非藏人主書代 意今ハノキナド云是之俗言ノモハヤト云ニア

廳官。召次取。取衆。藏人武者取。御隨身取。  
左右將監。右將監右將監。右府生。右左番長。右左近衛。御  
院別當。舍人。居飼。牛飼。車副。女院。同之。恒  
武者取。隨身取。無之。

タレリ六ツ六新タテノ意ナルモアリ今未今  
参ナドノ今ノ如シ

○いゝそゝびイク度カニイクバグノ意ニ  
バヤキハ速之七もあるモ最速ナルノ義神

イクソノ春イリクノナド詠リ玉葉ノ一ニ  
代紀ニ殘賊強暴横惡之神古事記ニ道速振

ノ柳カノ小舟ノくゝびゆきノ一ノ  
荒振國神等ナドアルヲモテ古學者ハ其文字ニ

知人哉歎之  
泥ニテモトハ惡神ニ係リシ語ト心得テ此枕詞

○いひもやハヤシハハアラスニエアノ友ヤナレハ  
ヲ忌婦ヒテ神ト云ニ常ニ魂幸トノ置ル

ヤストツメ允語之今モ謡ヲウタフヲ榮アラセ  
ハイニシキヒガノ此最速振テフ語ハ靈多事

トテ笛鼓ナドヲ添ルヲハヤシト云是ニ  
キ御稜威ニシ殘賊強暴ノ極威ニシ其最速

○いろふー暗ナルヲ云面目ニスルヲモ云ニ  
ブル勢ヒテ向ヒガタクヤタリカタキニ就テ云語

づーよかーはどーきまものものこ  
ナレバ善神ニシテハクシビナル御威徳ヲ申惡

おあひまけふつかひものどろろーよ思ひ  
ニツクルハ其強暴極威ヲ云イチバヤキ同意ニ

○いもんかゝぬーイハフヤウモナイ殊外  
ニ序ニ云ニ靈幸神トハ人命ヲ幸ヒ保チ玉フ神

ナルヲ云 最速振ハ善惡ナテノ神云枕詞ニ舞語ハ

いちむらやまこゝろひとねん志らりトサアル

いちむらやまこゝろひとねん志らりトサアル

いちむらやまこゝろひとねん志らりトサアル



○いとなむこづカラ其事ヲスルヲ云若紫卷

のぬいいとぬむけりいゝはまばまいと  
なまハ解言テシワザ職分ヲ云

○いりゝの俗入り云又入りヒタレト云ホド

○いりゝの風心ヲシレモモコウ云いり  
ゆゝつゝの風心ヒマナリ吹シキリテハケシキサマ  
敷如ク操カカリルヲ云之此語野分巻モアリ

○いりゝのイサカケヂメ種ヲドウ又ドウヤ  
ウニノ意ドヤウニカサゾノ意ドウジヤト云カ  
クハ語何故ナゼニノ意是ラ前後ヲ味ヒテ知レ

○いりゝの伊箇之保虚萬葉ナ三劔刀鞘使抜出而  
伊香胡山ヲイカゴ山ハイカキニ云ヒカケルモ  
之將マイキホヒツヨキモ子カラノツヨキモ云  
いりゝモオナジ春日祭ノ祝詞ニ伊加志夜久  
波層能如久仕奉平野祭祝詞モ伊加志夜

久波能如久豆粟之米云真例カ祝詞考  
ニ伊賀志ハ紀原又重トカキ諸ノ祝詞ニ改ト書  
テ盛リニ足ラヒテ勢ヒノ嚴ルニト云リ夜具波  
散ハ弥木榮之樹ノイヤカ上ニ生茂リ榮ル云  
木茂ク生タ取ラ林又波延トモ云此榮今  
ノ世本草ノ孫枝ノ生茂ルヲヤゴバエト云モ是  
木ヲ賀トモ具トモ通ハシ云ルト也後ノ世言  
ニイヤカ上下云モ強ク之ニハアラス此夜賀波延  
ノ記リタル也いりゝノ本ノ意ハイヤキ  
ノ細言ニアラシクタカシキハ息マキケテ  
胸苦シクナリモテユクカライキマキト云

○いつのふり五箇河弥陀経流通今云  
五箇思世ハ劫濁見濁煩濁衆生濁  
命獨ト

○いつのあまの五障ヲ云サハリ何基ト  
云ヒナシタル五障トハ法苑珠林提婆品ナニ  
又女人身猶有五障一者不得作梵天二者

ヲ云ハ物ノ速ナルヨリ轉レルイナカラハ  
暴横悪之神之枕詞ナラマシカバイカテカリ  
迄傳ルキ

○いりゝの新様樂記ニ野千坂ノ伊賀專  
之男祭トアリ狐ヲ云東屋ノ人今又いりゝ  
めよあつとありぬんとアル媒人ノ典  
クヲ云タウメハ老女ヲ云老女ノヨク口ヲ利ナ  
欺クサマノ狐ノ人ヲ化スニ似タルヲ以テ其コカ  
ル媒人ヲシカ云ヒ習ヒタルト云或曰伊賀  
伊勢国ハ白狐ヲタウメノ御前ト云狐ヲタウ  
ト云トゾ

○いりゝ和名極瑞籬俗云美豆加岐  
籬ノ意ナリ玉カキノノノナド越テ穢スヲ  
忌垣故トイ垣ト云ヲ其ノヲ省キテイガキト云  
○いりゝの大事思心ヲ用ルヲ云愛允ニモ  
又病ヲヤシフモモリモト大事思フヨリ出テナリ  
○いりゝの体ノ語之俗云行ワタリノ意テいり

ふりゝハ事情ニヨク行ワタリタル云  
○いりゝの白文十九煩君五指分明語  
ハツラハシキ意ナリ

○いりゝの仲衣紀天皇即美五十逆子曰伊賀  
志續紀伊蘇美之宇牟賀斯同紀勝室牟  
三月云東人等於部内盧原郡多胡浦濱獲  
黃金獻之於是東人等賜勅臣姓此外云勅  
字勅ノ字等ヲイッシキト点セリ萬葉イ  
ソクミバトモ同イサヲシノサヲ細バト  
功ヲ云ヨク役ナド勅ルヲイッシト云リ

○いつのあまのイツマテモイツトカギリモカ  
イツモイツト云定マリモナクナトノ意ナリ  
○いりゝの字鏡ニ南水芭也木乃伊良ト  
アリ枝葉アルヲ云和名抄ニモ奇ハ和名伊  
良小草生刺也トアリ橋姫巻ニヤハむぎよ  
いりゝの類ハ河海ニ寒キ片鳥批  
立ヲ云トアリ毛ノ穴立テ水ノ伊良ト具

○いつのあまの五障ヲ云サハリ何基ト  
云ヒナシタル五障トハ法苑珠林提婆品ナニ  
又女人身猶有五障一者不得作梵天二者



帝叔三者魔王四者轉輪聖王五者佛身也

一々の源氏源姓賜玉つて臣下の列に在

皇子ノ其一代ナル云一世ノ源氏納言大臣

二十リテ後ニココモナリ位モツキ玉ハ例ア

マタアリ

刺ノ如見ユサマニ詩ニ鶏皮ト云ル是ニ手習

ノ卷ニことりいらいふことりいらいふことり

キのふつアルモ同リ奇ノ意テ地合ハ花

コハシクカドヒ立タハサマヲ云リ

○いざら井際井之際ハ和名故ニハタツト

訓テ雨ノ後ニハカニタマリテハシアル水ニ

書紀ニ際水ヲイサラ水ト訓セタリイサラ

ヒモ際井ニテ元ハ水ノスリナキガ雨ヲ使リテ

マシホトスルヲ云リ

○いたのやイヤカケテメニテ種タリイヤト

ヤモウノ意イヤモウケシカラヌツ惣トキ

歎ク意イヤカドウジヤト向ヒカク語ト云リ

○いらき所煎テ胸ヲヤクユカスナド同クセキ

立之俗ノセカスル意ナリ

○いらぬ古事記伊良那郡久ハ萬葉ナセモ可奈之家口許也尔思出伊良奈郡久

曾許尔思出奈氣久蕪良夜須家久奈久尔トアリコ古事紀ノ御哥ニヨリテヨメルナ

ルニ此言地ヲ除テハ古事書ニ見エス言ノ意詳ナラス中首ノ書氏ニ往ク見エル中ニ

大和物語ニワカサハのいづれありと云ふことあり

ルハ谷獵ノイミジク兼ヤツレルヲ云ルニ契沖モ意ヲ引テシテ稜ヲクカクヲ云カイラハ

イラキノイラ同シケレハ無等ノ意カト云リ真例モ等無テ利心モナシト云ニ同シカルべ

ト云リヤバイラナキハ無等ニテモアルべシマコトニ物ノ哀シク心ヲセシラレルニテ萬葉思

ト云リヤバイラナキハ無等ニテモアルべシマコトニ物ノ哀シク心ヲセシラレルニテ萬葉思

ヒシナニ心モシヌナドアルト同シサマヤラム然ルニ宇治拾遺ニいづれ太刀と云フ

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと

又むちの端と云フことありいづれありいづれあり大鏡ニははむむと云フこと



○いづこにそと、旅立ノイモ世ヲムクイモ  
世ヲ去ルイモ云リいそヲハ支度ノ意イ  
ソギ

○いつくしき、嚴重ナル意ニ萬葉五ツラ  
ミツヤマトノ國ハスベ神伊都志吉國

○いづこにエイテハエ反テサシ出テ見ルニ  
ハエキ之イデバハ俗ニシタテバエナト云如クサ  
シ出テハエアル云

○いさくりに世語ニホモジヲソテ云ク俗之  
ト宣長ク去ルハイカ、書紀ハノ字ヲヨメリ  
アマ例アリ、土佐日記ナニノ覺ハシク

○かゝる拾遺哀傷いさくりにハシ、  
ふといふ題とよむ、巻九の巻ニ  
暇をむく、巻九の巻ニ

○いさくりに遊仙窟氣調如兒俗ノモ  
ゴシ、カマツ云

俗トシト云意、又宛端ナカラ俗ニ云イヤモウ

ノ心ナルモアリニ様ノ以テアノイ抄ニ何レモ意  
ヲモテノ只今スキナオサハ語ナレハ極  
意ハ同シカレト云リいぞハドク、いぞ

イヤモウノ以テヨク云ル  
ニ補物品云石伏形似及々而細有鬚大頭細  
尾無鬚腹白脊有班文而蒼黒大者三子  
性伏破石其味最美和名抄難布之性伏沈  
在石間者也

○いひとほ、言通之理非明白ニ辨、右ヨキ  
ナダメナクサメテ物ヲマツウ

○いひとほ、言通之理非明白ニ辨、右ヨキ  
ナダメナクサメテ物ヲマツウ

○いひとほ、言通之理非明白ニ辨、右ヨキ  
ナダメナクサメテ物ヲマツウ

○いひとほ、言通之理非明白ニ辨、右ヨキ  
ナダメナクサメテ物ヲマツウ

○い、何子之御坐、具之延喜式四八六倚  
子一脚、高天三寸長和名抄倚子本朝式集

○い、生霊之遊仙窟鬼故調  
注云、後現其鬼通也和名抄ニ遊仙窟ニ云

○い、和名抄倚子本朝式集  
意ハ異之萬葉ナセニ吾セユガ國マシハ

○い、和名抄倚子本朝式集  
意ハ異之萬葉ナセニ吾セユガ國マシハ

○い、和名抄倚子本朝式集  
意ハ異之萬葉ナセニ吾セユガ國マシハ

○い、和名抄倚子本朝式集  
意ハ異之萬葉ナセニ吾セユガ國マシハ

ニモツカリヨキ、モ思キ、モ思キ

○い、和名抄倚子本朝式集  
意ハ異之萬葉ナセニ吾セユガ國マシハ

○い、和名抄倚子本朝式集  
意ハ異之萬葉ナセニ吾セユガ國マシハ

○い、和名抄倚子本朝式集  
意ハ異之萬葉ナセニ吾セユガ國マシハ

○い、和名抄倚子本朝式集  
意ハ異之萬葉ナセニ吾セユガ國マシハ

○い、和名抄倚子本朝式集  
意ハ異之萬葉ナセニ吾セユガ國マシハ



ラ同シイケリ又俗言ニソコニ御出ナサルト云  
サレト云フソコ御出ナサルト云ハ行嗟イテ是ハ  
タツ言ヲ通シ用ル例同シイ

○いでゆすやイテ発語ニ左様ノイテラ  
ズ之地ヤモシ疑ノヤモシナラズ疑ハシヤト云  
ヤトノヤモシニ同クソケルノミ之朗云此ヤアリ  
ヤナシヤノヤハモトヨリアラズ又ニ驚ハヤヤ  
ニモアラズ又ヨリ通フモ云ス只一種ノヤテ意  
ハヨシ近シサレモ通フト云ス故ハ三寫江ヤ  
ヤモヨモ皆ツク詞ヨリウクルヲ是ハキル、詞  
ヨリナシバニサテ又イテノ下ハウツシヨト云  
モイカ、サテハイサ、カタガヒアリ

○一日のおおのくじく心地観経曰若善男  
子及善女人発阿耨多羅三三菩提心一  
一夜出家修道二百萬劫不墜惡趣常生  
善處

○いふ山伊吹ト云稀意ハ山ノ神毒氣  
ヲトウト通フ音

雅言 常ノ古事記中ニ哥トモニ哥モ  
四哥トモアリ

○いひいモ井ト書ガラス書紀ニ食  
イヒト訓リミトモト通リヒハ飯ノ義  
ニテ食ニ精進スルヲ云

○いひいモ井ト書ガラス書紀ニ食  
イヒト訓リミトモト通リヒハ飯ノ義  
ニテ食ニ精進スルヲ云

○いひいモ井ト書ガラス書紀ニ食  
イヒト訓リミトモト通リヒハ飯ノ義  
ニテ食ニ精進スルヲ云

○いひいモ井ト書ガラス書紀ニ食  
イヒト訓リミトモト通リヒハ飯ノ義  
ニテ食ニ精進スルヲ云

ニ用ヒタルイナシイサヨウニハカニカリ下足ラ  
サル意ヲナシ

○いひいモ井ト書ガラス書紀ニ食  
イヒト訓リミトモト通リヒハ飯ノ義  
ニテ食ニ精進スルヲ云

○いひいモ井ト書ガラス書紀ニ食  
イヒト訓リミトモト通リヒハ飯ノ義  
ニテ食ニ精進スルヲ云

○いひいモ井ト書ガラス書紀ニ食  
イヒト訓リミトモト通リヒハ飯ノ義  
ニテ食ニ精進スルヲ云

ヲ吹由ト谷川ニ清ニサモアルベシサニ萬葉  
ニハ山ノ哥ナシ又六帖ナドニサレモ州ヲヨメ  
ル伊吹山ハ下野國ト頭昭カ袖中抄ニモエ  
契沖モ清女納言ガサナリト云ルコト也

今集ニ入り冬海ノ歌ニハ伊吹山ノ歌アリ  
今集ニ入り冬海ノ歌ニハ伊吹山ノ歌アリ

○いひいモ井ト書ガラス書紀ニ食  
イヒト訓リミトモト通リヒハ飯ノ義  
ニテ食ニ精進スルヲ云

○いひいモ井ト書ガラス書紀ニ食  
イヒト訓リミトモト通リヒハ飯ノ義  
ニテ食ニ精進スルヲ云

○いひいモ井ト書ガラス書紀ニ食  
イヒト訓リミトモト通リヒハ飯ノ義  
ニテ食ニ精進スルヲ云



度心量ヨリ轉レリ

○いつ書紀稜威ト書テ此云伊都トアリ  
後ノ字ハ漢書成稜督平隣國注ニ神吳  
之威曰稜トアリ文選稜威トモアリサテ都  
ハ清音ニテ濁ルハ非之晨ノ字ノ伊豆ト混  
テハ心得ベカラス

○いづく久幾久之祝テイク久トハイタ後  
ノ世ノ語ニ萬葉モ幾久ト云フハアレドソハ  
意異ニシテ祝ノ語ハ非ス

○いむやまノ性時ニテ古キコト今語片ニ  
詞ノ俗言ノ其以前ト云ムカ如シ

○いくり海石ノ海ノ底九計ケ云テラズ  
海上ノ出タルヲモ云尤大ニカハラズイハ  
語ニクリ氏云リ

○いつことおのり小ハ何ヲ面目ト云意  
○いゆや山姉ト云ハナシ姉ト云ルハトカ  
クニダ背山ト云名ニキテノ詞々ヤミ

神停河耳命ノ御兄ヲ那泥汝命ト申玉

レバ那泥ト云モ女ハ限ラズイロモモ准フ  
レサレバハ男女通フ称同母姉ト云ハハ  
ノアチ略キテ名ト云ニサテイロトハ人ヲ親  
シ愛シテ云ル言ニテ某入彦某入姫ト申  
御名ノ入又郎子郎女トノ伊良モ也  
同言ノ活用ニテ同意ノ日子坐王ノ御子ニ  
飯入根ト云名ナドモイロト云ト通ル以  
テ知レシ同母ノ兄弟ヲ伊呂勢伊呂勢母  
伊呂波ト云イロハ親シ愛シテ云称ノ萬  
葉十六ニイロケセル菅原立小笠トヨルモイ  
ロハ其人ヲ親シテ云ル

○いもんやハ云モ及バズト云意ノ言ノ平  
康頼入道ガ宝物集ニ申さんヤナシ文を  
やいもんや金銅をや大佛ノ勝レ先  
ヲ云リ申サニヤト云ルニテモ心得ベシ

○いづハ大内ノ参ルヲ入ト云ニ習ヒテサラス宮

ナドモアガメテ入ト書シトオボシキ萬葉ニ  
一ニアリ然ルヲ唐國へ行テ入唐ト云ハハ  
コト今ノ京トナリテ心得ラレシヤ遣唐使  
ト書シ時モアリレ凡史式ナドハ唐書學シ  
ノ書タリシカバミダリニ他ノ國ヲタフトテ  
入唐大唐ナド書リ又延喜式ニハ入渤海  
使入新羅使トモ書シハ入ニ心ヲモツケザ  
リナリ

○いろも伊呂妹同母妹ト云マツルテ古ニ兄弟ヲ云男弟女弟ニ對テ男兄ヲセト云  
ニトモ云又女兄ニ對テ男弟ヲモセト云リ須佐之男ノ命ノミヅカラ天照大御神ノイロセト  
詔ルカ如シ中昔迄モ然云リ女兄ニ對テ男弟ヲカク云ハナカリキ此ハ後ト異  
サテ女弟ニ對テ女兄ヲアネト云又男弟ノミツカラ女兄ヲサシテモアネト云リ姉ハ和名抄  
ニ亦雅云女子先生為姉女兄之和名阿祢但男弟ノ女兄ヲアネト云ハミツカラ呼時ノ  
カタヨリハ男弟ニ對テハ女兄ヲモイモト云リ中昔迄モ然ル此ハ後ト異サテ男兄ニ  
對テ男弟ヲカト云ハハ常ノ如シ女兄ニ對テ男弟ヲカト云ハナカリキ又女  
兄ニ對テ女弟ヲカト云リ中昔迄モ然リキ女兄ニ對テ女弟ヲイモト云ルハナシ  
此ハ後ト異サテ男兄ニ對テ女弟ヲイモト云コハ常ノ如シ女兄ニ對テ女弟ヲイモ

ニテ更詳序枕詞ニアリケル此背山ハ書紀考

徳天皇ノ御卷幾内ノ甥ヲ定ラレ取南自  
紀伊ノ山以未ト有テ兄此云割ト訓注迄  
アリサテ萬葉ニハ卷持天皇御代ノ哥  
ヨリ始メテ見エテ多ク此山ヲユエク由端詞  
モ哥モエタリ姉ト云ハ兄ノ山アルニキ  
マウケテ云ル名ニテ実ニ然云山アルニハ  
ト宜長云リ委久ハ玉勝間ニ見エタリ

○いろも伊呂妹同母妹ト云マツルテ古ニ兄弟ヲ云男弟女弟ニ對テ男兄ヲセト云  
ニトモ云又女兄ニ對テ男弟ヲモセト云リ須佐之男ノ命ノミヅカラ天照大御神ノイロセト  
詔ルカ如シ中昔迄モ然云リ女兄ニ對テ男弟ヲカク云ハナカリキ此ハ後ト異  
サテ女弟ニ對テ女兄ヲアネト云又男弟ノミツカラ女兄ヲサシテモアネト云リ姉ハ和名抄  
ニ亦雅云女子先生為姉女兄之和名阿祢但男弟ノ女兄ヲアネト云ハミツカラ呼時ノ  
カタヨリハ男弟ニ對テハ女兄ヲモイモト云リ中昔迄モ然ル此ハ後ト異サテ男兄ニ  
對テ男弟ヲカト云ハハ常ノ如シ女兄ニ對テ男弟ヲカト云ハナカリキ又女  
兄ニ對テ女弟ヲカト云リ中昔迄モ然リキ女兄ニ對テ女弟ヲイモト云ルハナシ  
此ハ後ト異サテ男兄ニ對テ女弟ヲイモト云コハ常ノ如シ女兄ニ對テ女弟ヲイモ

ナドモアガメテ入ト書シトオボシキ萬葉ニ  
一ニアリ然ルヲ唐國へ行テ入唐ト云ハハ  
コト今ノ京トナリテ心得ラレシヤ遣唐使  
ト書シ時モアリレ凡史式ナドハ唐書學シ  
ノ書タリシカバミダリニ他ノ國ヲタフトテ  
入唐大唐ナド書リ又延喜式ニハ入渤海  
使入新羅使トモ書シハ入ニ心ヲモツケザ  
リナリ



ト云フナカリキ又男弟ニ對テ女兄モイモト云リ此ハ後世ト異ニカリテ又同母兄弟ニ對テハ  
也アイロセアネナイロネアネノアヲ泣ト云ハモトハ男女ニワタル稱テ男ノ名ニモ貞ヘリ古事記  
中卷浮穴宮段ニ男子ノ名ニ泣ト云ルアリ然ルヲアネノアヲ省キテ同母姉ノモイロネト云  
ナリオトナイロトオトノオヲ省キテド、云コレラニ准フル同母兄ニ對テ女弟ノイロネト  
云ケムト決シテアネナイロネオトナイロト云例テイモノイヲ省キテイロネト云レシ古野  
兄ニ對テ女弟ヲオトト云レ例ナシ記中ニ伊呂弟トアルハ十男弟ニテ女弟ニハミナ伊  
呂姉ト書リ又黒田ノ宮ノ段ニ伊呂持ト云名モ女兄ニ對テ云レハ男兄ニ對テ云レ例  
ニアラスルテ古ヘ兄弟ヲ稱呼名モ男ト女トヨリ互ニ異ナルト右ノ如クニテ後世ノ  
格トハ異ナルト多シ委曲ニワキマズハ誤ルヘシ書紀ノ訓又和名抄ナドハ古ニアヒカタキ  
トマシレリ能クワキダメテ取ベキナリ

○いもイモト古夫婦シ他ノナニシレ男ト女ト双テ片兄弟ニシテ其女ヲサレテ云稱  
故記中ノ例兄弟ヲ奉ル兄弟ト云婦ト云姉ト云姉ト云某ト云姉ト云某ト云テ姉トハ  
云ス阿遲姫高日子根神次三姉高比賣命ト云姉石長比賣其弟木花之佐久夜叉賣  
ト云ルガ如ク心ヲ着レシ古ヘ定リト見エタリ然レバ女ト女ト同テハ姉ト云フハ古ハ  
ナカリシ又書紀ノ仁賢卷ニ古者不言兄弟長幼女以男稱兄男以女稱姉ト凡如  
男ヨリハ姉ヲモ姉ト云シ之サテ又夫婦ノ間ニテ妻ヲ姉ト云ルトハ世ノ人モヨク知ルト  
然レニ書紀ニ雄略天皇ノ皇孫ヲ指テ吾姉ト詔ヘラレテ臣メ稱妻為姉蓋古之俗子

トアルハ、カニヤ此ハ今ノ京ニナリテモ常ニ云ルヘテ奈良ノ頃サラシクカカリヨクシケニ  
蓋古之俗ナドハ強テ萬ヅヲ漢又メカサトテノ文之サテ又他トチノ同ニテモ男ノ  
女ニサレテ姉ト云ルヘモ萬葉杯ニイト多シ但ニ卷ニ姉ト云ハあべののりかこ  
志ウナリナリ志ウナリナリ然ルヤ、後ニハ女トテノ同ニテモ云フトナレリキ姉姉ノ同ニテ姉ト云ハサラテ他人ニテモ  
萬葉四吹黄力自カ哥又紀ノ女郎ガ友贈ル哥又十九家持ノ姉ノ其妻ノ許贈  
哥其答哥ナドニ皆姉ト云リサテ姉ノ字ヲシモ書ハ此稱正ク當ルル字ノナキ故ニ姑ク  
兄弟ノ同ノイモニ就テ當テタルモノナリユメ此字ニ流シテ言ノ本ノ意ヲ勿誤リ然ル  
後世人ハヒタスラ字ヲ主トシテ思フ故ニイモト云ハ本兄弟ノ姉ヨリ出ルカ轉リテ妻ヲ  
モシカ云フト心得誤ルメリ

○いりりおろし和名抄云四声字苑云海○衣服田服ハ官人五月八月田服衣服トテ  
以石駮舟曰伊加碇トアリ石ガリノ略ニ 三十日ノ暇ヲ云フ又三年ニ一度父母ヲ  
常ニモ船ヲ止メテアルヲ船ノカカリ井ルト 定省スル暇ヲ云フ令ノ定メシ  
ニ是ナリ

○石橋淺キ瀬石ヲ数々並ベワタスラ云今ノ 河の石橋ハくさねの石の如くあり  
石ニテ作りタル橋トハ異ニ萬葉卷ニ云 けむらひの坂上河原出羽ノ名取ニ此川  
天川伊之奈弥於可婆トアル是也 氷イト早くニテ舟ヲヒキホスニ舟ノ頭フル







- 見給ヒテイカニホカルト覺し出ん
- いくくちりてり古今いめくのとや
- 此本哥ハとわらうバトアリソレサハイカニ
- シリテカト云リ是ハいづものゆゑぬ
- いてぬの方出居方之常ニ出居ル取ニテ
- 常ノ殿ヲ云田舎ノ農家ニテ井ノ郷テフ取
- リ是出居ノ口ニカルジノ常ニ出居ルは是
- ラモ古言ノ田舎ニ残レル
- いや 恭尚書祀書紀ツシ
- ウヤマフヲ云
- いていづとテアノ反タニイキテアラ
- ジト云フナリ
- いづりりぬき白妙ノ夜浮摺打モ
- 不何ノ煩ヒモナキ白妙ノ夜ナレバ大事ニ
- スベキ品ヲラズトノ意ナリ

いづりの巻綴オマナヒノ貞言陸羅尼ノ  
 敷ヲカキテ奥ニ祈禱ノ意趣ヲカキルモ  
 石のむしねのね白樂天香炉峯下  
 新下山居中堂詩中ノ句ニ五架ニ間新州  
 堂石階松柱竹編場

いづ將軍がつらるる時平大臣ノ  
 男保忠ノイヲ紀ノ在昌カ作レル詩ノ句ニ  
 天興善人吾不信右將軍塚州初秋ニテ  
 青シト吟シカタル之而月ノ頃ナレバ秋ニモ  
 テハ季節相違ス昔ノ字ニ時令モ叶ヒ  
 本詩ノ意モ違ス眼前ノ景氣浮メリヨテ  
 いづちりりせのこしぬきバトホノ詞ニ  
 マリ保忠ノイ物語ノ時代ニ近シ保忠ハ  
 大納言正三位陸奥出羽按察使兼行右  
 近衛大將藤原朝臣保忠兼平六年七  
 月十四日死年四十七次ノ詞ニナレバ  
 ちりりとはりり心こころやうぬりり

- いよお 伊予幕立ヲモテ作りタレ簾ヲ
- 云コハ本伊予国ニテ作り初メ故シカ云
- いうういづかおつるぬいカウ
- ハ向ヒタスラノ字音ニカレ言ハ普通ノ
- 人ノ云ギニナラズ其人ニ應ヒテ田舎カシ
- 書ルモノノ萬ハ打ステヒタスラニ大事任
- フマツラント云語ナリ
- いと子ノ眼ナリイトテナキト云ハヒガユ
- トナリト為家御ノ説ナリ
- いき紐雄紐雄紐ヲテ装束ノ中ナリ
- 合セテサシ入モノニヨテ入レ紐ト云大カモ
- 入紐アリテ片方ヲ輪ニテ片方ヲソレガ中
- ナレテ結ヲ云
- 今も如も世ノ字ニトモ休メ詞ヲ今
- カト云意ニケフモカモト云モ目今モケ
- フモト心得ルハ誤
- いていづと行ダニシタラニハシバシ

近ウハ柏木ノ遠ウハ保忠ノ之世郷ノハ  
 いとちかきせのこしぬきバト云ヒテト  
 ありト云ハ女子マテタガレヤラシレシカラ  
 不道キ世ノ内ニモ柏木ノ近キクラフハ  
 トホキ者ナレバ

いや 漢文ニ昔ノ字ヲ訓ト同じ  
 詞ニツカヒサマハ異ナレト意ハ大カク似タリ  
 カリリメニテモナド云意ナリ

いとあひもむら彼方ヨリイトフツケ  
 テイヨ、世方ノ思フ意ノスミサナリニ  
 ナリユカラ云ハルハバエナド云ハエナリ

いや おのづかハカナキトイヨクマカハカ  
 ナリナリユクヲ云

いや 世ノ切ニイサハ躰言ニイサシト云  
 用言ニタトハバ躰モ躰言ニハヒナルヲ云  
 シト云バ用言ニサテイサテ躰云時ハ身  
 ヲアリナド云ベキヲイサテアリト云ニハ











○いせ人の波のうへへいこくをい哥の引哥い

○いせ人の波のうへへいこくをい哥の引哥い  
せ人の波のうへへいこくをい哥の引哥い  
乃りて波のうへへいこくをい哥の引哥い  
ルト云リコハ風俗哥の古本云伊勢比良  
安也之支毛乃子也奈止天戸波乎不称行  
利天也奈見乃宇倍乎已久夜奈見乃子  
已久夜トアリ契沖ノ志レハ智者ノ失レ也

○いちめ市女之今世毛仕人ナドヲハ物アキク

○いちめ市女之今世毛仕人ナドヲハ物アキク  
商人或ハ市女トナドヲナクテハ行通ヲ程旨  
團ツケテ媒スルガミナホ多シ

○一世の源氏又綱云大臣は後より

○一世の源氏又綱云大臣は後より  
こころも成位もつきのいへるもあまの例あり  
式部卿是忠親王元慶八年賜源姓中納言  
三位寛平三年立親王中務卿兼明親王左大臣  
正三位源氏貞元二年為親王上野大守盛明  
親王太藏卿正四位下康保四年為親王光仁  
天皇元大納言桓武天皇元從五位上大學頭

中務卿光孝天皇元二品式部卿宇多天皇  
貞觀十二年賜源姓仕侍從仁和三年為親王  
即位是ヲイフ云

○いづきとせむねをいひりやハ云い標炭

○いづきとせむねをいひりやハ云い標炭  
経曰世尊頂放百宝無畏光明佛ノ頂キヨリ光  
明ヲ放ツモノニ常ニ云其像ニモ光明ト云モヲ  
別ニ作り又重クイナルソレニ對テ云レテ人ノ形  
メデタキハイカニスレタリト云佛ノ光明ノ  
ヤウニ頂ヨリ放レテ別ニ光リアルモノハアラズ  
ト云ルナリ

○いぢぎやむのりゆめイソキウタクナト云

○いぢぎやむのりゆめイソキウタクナト云  
詞ニアリイソグトテアハテマトフナト云レイ  
いぢぎやむのりゆめイソキウタクナト云  
カリモ同し伊勢物語ニ多キ語ナリ  
いぢぎやむのりゆめイソキウタクナト云  
きてすまのぬらひをいぢぎやむのりゆめ  
筆法ニ純シテ繕ヒタルヤラ云

○免ハト云ニカケテ此ト云リユハあや

○免ハト云ニカケテ此ト云リユハあや  
免ハト云ニカケテ此ト云リユハあや  
アルトサレドサテハいとわうと云語マノカタ  
リノイ現在ヲ思ヒヤリノ過者未キヲ語ナラ  
スバアタラズ極古注ノアマリナルト見ルカ  
程ナル也又思フニまてゆさまでノ字ヲ誤  
リニテハナキカ

○いさへ川取も古今集古本イサヤリヲサ

○いさへ川取も古今集古本イサヤリヲサ  
ラハト書ルガアリテソレヨレルヤ後拾遺集  
序毛近江のいさへ川にいさへ川にいさへ川  
つとと書レタリ六帖卷五いぬがもやとこ  
の山取いさへ川にいさへ川にいさへ川  
らす那トアリ今ノ古今集三たのいさへ川  
アリ是書タカナル也萬葉十一物上鳥籠  
山雨有不知セ川不知ニ五寸許勢余各告余  
源語のいさへ川ハトアルハイサヤリヲ誤レル也  
六帖後拾遺ヨレバ式部が頃ハイサヤリトを

習ヒタルヤ何レモイサヤリノ誤ニイサヤリ  
ト云ル川ハナシ

○いさへ川取も古今集古本イサヤリヲサ

○いさへ川取も古今集古本イサヤリヲサ  
紫ヲバ女ニタトヘタルナリ  
いとまきやぬの河海怒ル姿之徒然  
毛腹立タルト云ヘハ河海ニ元也腹立  
胸ノホドバシル故ニ息ノ短クナレバ息ヲ卷ト云  
義ナル也

○いさへ川取も古今集古本イサヤリヲサ

○いさへ川取も古今集古本イサヤリヲサ  
キビシキ怨敵ノ意アリテ又心モ形モ老ノ  
如クナルサロシキ者トモト云意ナリ  
いつの川の船ゆり水津川ヲ云ニ書紀  
ニ六批トアリト云ト通ス崇神天皇  
奈兵州川ヲ中メ挑戰アリ故ニイド  
川ト云ル  
いさへ川の舟ゆり水津川ヲ云ニ書紀  
ワガシクテカリモ静ニラズ行還り走り



















○もろく同ク心ヲハルキナドモ同ク心ニ同シ ○たりせ侍士之職員令侍士或人掌教  
出雲国造神賀詞ニ麻蘇比乃大御鏡乃御事 経業課試学生又掌通古今ナドアリ古今ニ  
意志波留志天見行事能己登久云催 博ク通達スルナド云意ナリ学問力ギ交  
馬乗ニカシヒラヒテヲ一本ニカシヒラヒテトアルモ 何ノ道ニモ博ク通メ人ノ師トナルヲ云  
拂ニアラス用イテノ意ニ

○オノりり万葉ニ小端ヲハツトモハツカトモヨリ クルモ故晁ノ白クニルモノトバカ云  
ワツカニイサカナル意ニ免クワツカニ及ビ云 ○オノゆりユノ部床ノ条スル世略ツ  
ルイヲ俗ニハツト云ルニ意同シ ○オノサリ何ト云レノ心ノイヨクスミ  
○オノサレバニケキバニナドノバニブリト云ニ ぐやウニナレヌナスヲ云  
同レブリノ物ビビシ延レババトナルヨシヨシ ○オノルンベルトモ云俗言ノマシテ又ガリヌ  
シブリヨシキニナ同シ

○オノくむ養育羽舎ノ字ヲ訓セキ本ノ 必付ルト云語ナシ山路ノ露ヲ書シク世意ヲ  
鳥ノカヒコヲ育ルヨリ出タル語ニテシダテ 志レテヤ地ニ付レノ語ヲ入ナリ

○オノくハト云トハラト云ト後ニ混レテニ 云既ニト云語之俗言アモトヨリムカシヤク  
心得レド本ノ別アリハラヒハ自爲ルヲ云 又トクトウニトウニヤナドノ意ニ又イカデ  
ハラハ令後ノ物リタル言ハセノ物ニ令レ云 トリト願フ意ノハヤリモアリ是ハ未未ニ

○オノラクルノ物語ニおむやとむむむむ ○オノりり遠之遠キ意今ト同シ年月日時  
テオムヤとムムムムノ具イアムムムム  
○オノト云ル類ニハラヒハ拂キ書紀ニ即拂濯  
トモ書レタリ 潔去ノ去ノ字濯除ノ除字  
ナトモ其義又洗モト通リ今俗病ヲ ○オノのむむむ 春ノ花ヲ春ノケシキ云  
買タル直ヲ出スヲ拂フトモ拂ヒヲスルトモ ○オノりりもむむ 是ハ限リモオキテフトノ  
云ハ後除ノ意ヲタレリ又是ヲ併スルモ 外ナル意ナリ

○オノ願フ意ニバヤアリ又ハニヤノニハツキ 高し又ハノ意ナリ今モバカリト  
タルバヤモ有又ハニヤノニハツキ云リオノキマデの巻今宵むむむヤト待ケル  
如キバヤハヤモジヲ下ノ語ノ切ルノ取ハツ 廿今宵ゴロノ意ニスベテ其時其日ヲ  
シテカニカテレバ能聞クヤバヤムムムム 此ニシテ元之俗ニ其前後ヲ大方ニシト  
ト云カ知レ

○オノウラハハハト笑フ声ニ 云ルトハイサクカタガヘリ

○オノチアキ東坡云博規者不可不吹時 フトノフルムベクシキハカリゴトヲバビノ城ヲ  
ウリヲ吹テ時ノアタリへ近キヨラヌヤラニ 攝殺ヲタクハテ賊盗ヲ防クノ計ハ詐謀  
スルヲ云今ノウバキバキスルヤウニヤカリ ト云キニアラササド戦ハ敵ヲ欺キ計ルカ

○オノチアキ東坡云博規者不可不吹時 フトノフルムベクシキハカリゴトヲバビノ城ヲ  
ウリヲ吹テ時ノアタリへ近キヨラヌヤラニ 攝殺ヲタクハテ賊盗ヲ防クノ計ハ詐謀  
スルヲ云今ノウバキバキスルヤウニヤカリ ト云キニアラササド戦ハ敵ヲ欺キ計ルカ

○オノチアキ東坡云博規者不可不吹時 フトノフルムベクシキハカリゴトヲバビノ城ヲ  
ウリヲ吹テ時ノアタリへ近キヨラヌヤラニ 攝殺ヲタクハテ賊盗ヲ防クノ計ハ詐謀  
スルヲ云今ノウバキバキスルヤウニヤカリ ト云キニアラササド戦ハ敵ヲ欺キ計ルカ

○オノチアキ東坡云博規者不可不吹時 フトノフルムベクシキハカリゴトヲバビノ城ヲ  
ウリヲ吹テ時ノアタリへ近キヨラヌヤラニ 攝殺ヲタクハテ賊盗ヲ防クノ計ハ詐謀  
スルヲ云今ノウバキバキスルヤウニヤカリ ト云キニアラササド戦ハ敵ヲ欺キ計ルカ

○オノチアキ東坡云博規者不可不吹時 フトノフルムベクシキハカリゴトヲバビノ城ヲ  
ウリヲ吹テ時ノアタリへ近キヨラヌヤラニ 攝殺ヲタクハテ賊盗ヲ防クノ計ハ詐謀  
スルヲ云今ノウバキバキスルヤウニヤカリ ト云キニアラササド戦ハ敵ヲ欺キ計ルカ



ニクム片ニスルイ

○オウ、將又意之アルヒハモトモ文字  
ヲリテ誤スベキアリ欽明紀ニ爲當トモ  
タリソノ余爲當ノ字ヲヨメル他書モ多  
万葉十六將見トアリ今迄ト同クヤリ  
又ノ意。是モトナラズテ云ル意。ソレガリ  
ジヤナイトアルガト又ノ意ナルモアリ。是迄  
カハツテ別段ナル意モアリ。ヤツリ又ノ意ニ  
スカタト含メタルアリ。カハツテ又ノ意ヨリモ  
ト含メタルアリ。ヤツリ又ノ意ハ  
皆同じ味ヒテシルベシ

○オウ、ホツレタルヨ云云衣毛紗羅毛トテ糸  
ニ云リ髪モ云又伯ヲハツルヒ云万葉毛每  
布祢乃波都流對馬云々舟ノ行者凡  
ヲハツルト云ソクニ宿ルヲトマルト云サレドソ  
ハツキテハツルトミテトマルイヲカネタルゾ  
多ク又果ノ字ノ意ナルモアリ

ムネトスレバ此語欺ク意ノハカレモ通ダニ  
様ニ云レサラコノハカヲゴツハトシノ反ツキ  
謀爲ト云意之右ハカレトト云ルヲ用ノ  
語ニウブカシ云ル之執念ヲシウホクシウ  
ホキト云ルガ如シ

○オウ、思量ノ量ノ字ニテハカラフ同カラ  
フハカレヲノケル語之俗云分別云々又  
測ノ字ノハカレハツルモル意之又議ノ字ノハカ  
ルハ俗ノ相談スル意之又欺ク意ノハカレモ  
リタガハル欺ク意ニテラズサテ欺クノ善  
通ニハカレト云リ今ノ俗ハハカレヲ思量  
スル方ニ心得テ欺クノタガハカレト云レ  
タルハ古今ウラウノカカヒ  
○オウ、元統元服ノキノ髪ヲ紫ノクミカ  
糸ヲ結ヲ云桐葉巻いと云、髪ヲ初元  
結又長キ代と云、髪ヲ心ハむすむこ免  
つやむすむこつやむすむこ免結と云

○花ん心ノアタナルヲ云俗ノウハキ心

○オウ、ホロト同語(合見)ハ風物ヲ吹  
チラスモキヌドノ音モ又集ルモノ思ヒニサ  
ルマナド皆ハラハバノ意ニ髪ニ云ルハハラガ  
リニテ候ノホルハオウノ音ナドノ意又扇  
音ハハサクニテ石ヲクダクハ猶ハラノ意ハラ  
ニラハハラゲリハラカサト古来ハ詞意  
○オウ、ホロト同語(合見)ハ風物ヲ吹  
チラスモキヌドノ音モ又集ルモノ思ヒニサ  
ルマナド皆ハラハバノ意ニ髪ニ云ルハハラガ  
リニテ候ノホルハオウノ音ナドノ意又扇  
音ハハサクニテ石ヲクダクハ猶ハラノ意ハラ  
ニラハハラゲリハラカサト古来ハ詞意

○オウ、ホロト同語(合見)ハ風物ヲ吹  
チラスモキヌドノ音モ又集ルモノ思ヒニサ  
ルマナド皆ハラハバノ意ニ髪ニ云ルハハラガ  
リニテ候ノホルハオウノ音ナドノ意又扇  
音ハハサクニテ石ヲクダクハ猶ハラノ意ハラ  
ニラハハラゲリハラカサト古来ハ詞意

○オウ、ホロト同語(合見)ハ風物ヲ吹  
チラスモキヌドノ音モ又集ルモノ思ヒニサ  
ルマナド皆ハラハバノ意ニ髪ニ云ルハハラガ  
リニテ候ノホルハオウノ音ナドノ意又扇  
音ハハサクニテ石ヲクダクハ猶ハラノ意ハラ  
ニラハハラゲリハラカサト古来ハ詞意

紫の糸ハ初元

○オウ、和名抄云字書云浹(和名獲  
鼻液也)文字集略云榜(他礼及俗云以字云  
鼻液也)カナシギモツル毛涙ノモヨサレハ  
折ニ云リオウノ音モ又集ルモノ思ヒニサ  
ルマナド皆ハラハバノ意ニ髪ニ云ルハハラガ  
リニテ候ノホルハオウノ音ナドノ意又扇  
音ハハサクニテ石ヲクダクハ猶ハラノ意ハラ  
ニラハハラゲリハラカサト古来ハ詞意

○オウ、和名抄云字書云浹(和名獲  
鼻液也)文字集略云榜(他礼及俗云以字云  
鼻液也)カナシギモツル毛涙ノモヨサレハ  
折ニ云リオウノ音モ又集ルモノ思ヒニサ  
ルマナド皆ハラハバノ意ニ髪ニ云ルハハラガ  
リニテ候ノホルハオウノ音ナドノ意又扇  
音ハハサクニテ石ヲクダクハ猶ハラノ意ハラ  
ニラハハラゲリハラカサト古来ハ詞意

○オウ、和名抄云字書云浹(和名獲  
鼻液也)文字集略云榜(他礼及俗云以字云  
鼻液也)カナシギモツル毛涙ノモヨサレハ  
折ニ云リオウノ音モ又集ルモノ思ヒニサ  
ルマナド皆ハラハバノ意ニ髪ニ云ルハハラガ  
リニテ候ノホルハオウノ音ナドノ意又扇  
音ハハサクニテ石ヲクダクハ猶ハラノ意ハラ  
ニラハハラゲリハラカサト古来ハ詞意







さだももういふやありふりかきの日とせと  
 加ぞかへき、杉小松ノ葉ノ百ガリナルヲ云り坐  
 契説カシハト云ハモト樹ノ名ハアキ久何レ水之  
 飲食ニ用ル葉ヲ云り契沖中書紀仁徳巻葉  
 此之筒ト云ル如シテ上代ハ飲食ノ具ニ多ク  
 葉ヲ用ヒシテ飯ヲ炊ク毛説ニ葉ヲシキモ  
 亦ホヒモシテ炊キツルカラカシキ葉ノ意ニカ  
 トハ元ノ妻リハカノ部柏ノ葉キヨ見ルハセ  
 守ノ神ト云シカラハ柏ヲムホト云テサモル  
 ○白虹貫日太子多之史記漢書ホニ出刑斬  
 太子丹ヲタラシテ奉始皇ヲ殺シトシケルニ其  
 象天ヲラレテ白虹貫日ナリ太子畏之タリト  
 恐シタル源氏ニナル余ナケレ春宮心ヲコト  
 ノ馬ニ腹黒キイアリヌキト思ヒテ云ル  
 ○カハシテ飛渡ルヨ云  
 三白ニイフ之齒ヨシト則ヨヒモヨリサレバヨ  
 固ルル意ニテ其モチニ大根橋ヲモルハモトハ

不レ非ス百ニ朝夕ニ座々ニ一度ニ卷ヲ講シ毎日  
 講ノ四日講切ヲ終ルハ卷ヲ八度講ス故ハ講ト  
 云其題目ハ古ヨリ大拾遺リテ其卷ノ内ノ事目  
 ヲアゲ進只ハ講師是ヲ決メ答ヲ法華卷ニ遊  
 三講元ニ非ス中ノ御八講ハ四ノ本寺ヨリ出書  
 ヲ是ヲ行フ委曲ハ元亨ノ狀書勅撰傳ニアリ  
 漢ト改トケテメ濱毛磯モ共ニ水際ヨ云名ヲ  
 同キ如ナレドクハシク云ハハサカ唐ナリ同キ水際  
 ニモ濱ハ陸ノ方ノ名ニ成ハ水ノ方ノ名  
 ○もの不俗ニ初尾ト書ハ暗推テタガリ延喜式  
 第八祝詞中ニマタ初穂ト書リ三代實録ハニ  
 新穀ヲ神ニ奉リテイ所鑄作之初穂ニテ又  
 云ニ新穀ヲ神ニ奉ルヨリ起ル詞  
 ○イグモツラリテヲナズ  
 リト云ニ古言ナルハハトハ只歩ニテ今

近江ヒギリノモチヒラ専ラ用ニ故此國カ  
 山哥ヲ誦スル所ノやかぐのの  
 三ノききバカ子でぞいゆらるゝの  
 ○花中ノ物ノヤカニキラレキヨス花ヤカニ  
 出タル二月夜又其句ヒサ花ヤカニ云ル  
 又食タル身ノハッキリトヤカニカルヨ云  
 ○大カクノ佩ヲ延々言ニテ御  
 賜ト云フヲ其用ノ言ヲ解ノ言ニテテガ  
 テ其物ノ名トスルヲ御執賜ヲ御執ト云ニ  
 同レ此格古モ今モカク物ノ名ニ多ク白皇女ノ  
 御車ト云御劔ヲ見セラルハ湯明ノ掬ヲ  
 ノイ  
 ○もろもろ甚中者ノ物語書ト云ハカ  
 用又言ニテ源語ト云ハユトサラニツツカナル  
 儒者語ニ用ヒタリ其煩ハ雅ヤカナ言ト  
 シ花ナルハサレド漢籍ニテハ甚ノ字然訓ハ  
 古言ノコレレノ葉モ多ク見テタリ七ニ甚多

世ノモノ入ヲヒルト云是ハハトハイサカノ問ノ  
 照ヲ安キ行イ  
 ○もろもろ今俗ニ時有時盛リニ物スルイ  
 ハルト云ハ疫病ノハル醫師ノハルト云  
 ノ物ニモ事モ云リ此言中者ノ書モ云ハ  
 今時ニトハ卯心バカハリ其人ハヤリ五  
 時トアリテ是ハ只時ヲヒテ榮玉ト云  
 一今今イノドノハルト云ハ其産業ノ盛ニ  
 用ヒラルヨ云カレハタダ其身ノ榮ヲ云  
 ○花者もろもろ皇國ニ橋ハ今ノ深山  
 榊子ト云モノテ又今仙アト稱ルソ實ヲ  
 ウルハシケレ花ハ目モナキモノナルニ常世園  
 ヲリ持来リ橋ハ花女實サト云ヒテ殊花  
 ハ香グハシクメテタケレバ花橋ト云名ツケタリ  
 ケムサテソノ花橋ハ密柑ト云榊子ニ云ラマ  
 せんせん樂万春樂踏哥曲催馬樂今  
 ノ催馬樂中ニテ多氏之外不傳之ニ云春







○オムニツアリツ機テス皆人新之今之版

ノ字ヲ書テ布帛類凡テ織成セ物總也

倭天布ヲシツタトス神功紀ニ高僧高僧

ニ綴羅又綺ナド凡是ヲモ得也然ルヲ世

ハ云ハバ機ノ心得テ布帛總名ナリヲモ

ナリガ如シ機ハ布帛ヲ織具ナリ以テ機物

ト云テ省キテハトミ云リ版部ヲトリト訓

モ世故之版部ハタ織ト云ミ機織ハ版織

トナラ意アリ百葉ナリト云ハハハハハ

ト世常ノ名ナリト云ハハハハハハハハハ

ハト云リ也シバ機織モ機布ヲ云テ倭文布倭

文機ト云テ直ニ知シ

○白鳥のそり合ヤ、部ヤヨ馬、余下六ラ書

ヨテ世ハ略ケリ

○オムニツ和名新云説文曰疋、疋、新、名、疋、

葉也言似物葉也和名彼彼トアリ勝ヨリ下云

○オムニツハ謀事也切テカリ云ニ極言也

ヨヒドリゴツ政爲ヲマツリゴツト云例

○花の中ノヤ、一、他中華蓋滿華ト他是

住生人各留半坐乘元兼侍杖而後同行

○ハ者ハソクツケルハ者ハ中務式部治部

民部兵部刑部大藏官内等ニ大極殿ヲハ

花櫻ト云思ハハハハハハハハハ

○オムニツ世ガガガ意ナラ春榮ノ意ハニ

ニレバハハハ春ハニ故ニ夏ハハハト云

春ノイモ物毎ニ榮元ノヨシルギニ

云ハハ春サキト云ガ如シ夕ハハガ

○オムニツハ間ノ間ヲハト云テ例多シ

ニ相鏡如ホト云ルモ端ハ借字ニテ間ノ意

又ホトモ何ナリト云モハハハハハハ

○オムニツハ神代紀麓山ト云ニ

端ノ旧説ニヤマトハ山ト云キト云リ

深カラ又義ハ山ト云ク

○オムニツハ阿倍之市道ヲ相之兒

情中ノ隱妻阿倍母ナホ多カリハハ

○オムニツハ其色ヲ宿ス直王ト云

取敷ヲ任片山里ナドハ多ク庵ヲ云

○オムニツハ訓テ賦ハ屋ノ一ノ序

○オムニツハ和名抄ノ填音

○オムニツハ其色ヲ宿ス直王ト云

○オムニツハ其色ヲ宿ス直王ト云

○オムニツハ其色ヲ宿ス直王ト云

○オムニツハ其色ヲ宿ス直王ト云

○オムニツハ其色ヲ宿ス直王ト云















○いほはるゝ可兼三庭多象流漢卷九高 ○にげあゝステ俗言似アヌヲ云似カハカラニ  
 波多豆美流漢寺膳米可社都母又慶登 ○にほすハ雅俗同ク其ハシラツカニスル之  
 美流漢云六依泉ノ流ル、ト云ヒカケル之和 ○白の雅言ノヒカリト云同ク俗ノ成徳成光  
 名極三唐韻云潦雨水也和名ホトナリトアリテ西  
 水ト云テモ思泉テフ意ナルヲ知ルハ或説又  
 マル水ヲ云ト云ルハトタラヌ解之可兼ニタツ  
 ミハ必流ル、ト云タル字注モ行潦ハ路上流  
 水トアリ雨降時地上タマリテ流ル、水ヲマリ  
 ○によう利有女別當ニ齋宮ニル女官之  
 ○西の町ハ山崎ト云キ、今ノ町ニシテマツ  
 子トハ間分ノ義ニテ田云モ殿マテ藏マテナ  
 ドニモ同義之抄リ、下ニモシ列下ニ地  
 モシ落タルニテ西の町ハ北巻ノものなり  
 こゝノ町ト云ナルベシ  
 ○にげあゝハ俗ノ若イ類スルト云同クイヤ思ヒ  
 白マシカハ元意  
 ○にげあゝハ無ニ官長ハ無ニ無似トスルハヒカ  
 一の子びハ和名秋唐韻云淫昨来反和痴也  
 常モキヒト云モ之ホクシテ細カシクイト  
 出モ之丹赤ト云義之  
 ○女藏人御膳ノイヲ専ラツト申下高岳  
 アリ水司膳司トナルハト下ヲロシキ品之  
 ○二の町一町ヲ専ラツル心下リテ次ナルイ云  
 俗語天切ニセ又通リノ物ホト云取用ル語之  
 ○にげあゝのニラヨカモ同ジヨハ和名字ヲ訓リ  
 雄史紀ニ温矣ト云セリ物ヤハラリニ愛敬見  
 サマヲ云  
 ○いげ月成つらひてアトメニツキテアドノミヲ  
 出シタケルヲ云  
 ○庭モセに庭モ揆ニ庭モセギホトニナドノシ  
 ゲルヲ云野モセ道モセ山モセナドノ同ジ  
 ○女御雄略紀便欲自來推媛為女御ト見之  
 女御ト云班ヲタカニ定メラレハ何レノ御伏  
 願ヨリクヲ有ケム雄略御代ハ推媛ヲ始ト

言一尺タケヒナリト云意ニカヒタリト云、雅  
 望云史記韓信傳功無二於天下ト云其外  
 ニモアマタミエタル語之唐国書ヲヨミナラヒテ  
 ヨリカキマノ語ハホニ云ツケタルガ自他国語  
 ヤウニテル之ろろナド云ルモ無論ニテ音訓  
 交シバ無下レテニ害ナカルベシ  
 ○いほはるゝニキ。ニシ。ニケリ。ニケム。ニシカサ。未云  
 ナリヲ。ニナ同シカ兼ニホノ字ヲ云セリ世テラ  
 ニラハ過去シヲ云トキ用ルテヨハナリ  
 ○にほすハ女院ヲ同母ヲ申奉ル  
 ○いほはるゝニシ。ニケリ。ニケム。ニシカサ。未云  
 キヲニカ下物ヲキラフト  
 ○いほはるゝニテハ去テテ略シタル語之ツビハテト  
 云意ナリ  
 ○いほはるゝ一欽明紀ニ天致饒富富饒ルヲ  
 云俗ノタフヤカテ繁昌ノ意ニ又キヤカハ意  
 又貞形ノ上モナリ何レモナシカラ又意之俗ハ  
 一の子びハ和名秋唐韻云淫昨来反和痴也  
 常モキヒト云モ之ホクシテ細カシクイト  
 出モ之丹赤ト云義之  
 ○女藏人御膳ノイヲ専ラツト申下高岳  
 アリ水司膳司トナルハト下ヲロシキ品之  
 ○二の町一町ヲ専ラツル心下リテ次ナルイ云  
 俗語天切ニセ又通リノ物ホト云取用ル語之  
 ○にげあゝのニラヨカモ同ジヨハ和名字ヲ訓リ  
 雄史紀ニ温矣ト云セリ物ヤハラリニ愛敬見  
 サマヲ云  
 ○いげ月成つらひてアトメニツキテアドノミヲ  
 出シタケルヲ云  
 ○庭モセに庭モ揆ニ庭モセギホトニナドノシ  
 ゲルヲ云野モセ道モセ山モセナドノ同ジ  
 ○女御雄略紀便欲自來推媛為女御ト見之  
 女御ト云班ヲタカニ定メラレハ何レノ御伏  
 願ヨリクヲ有ケム雄略御代ハ推媛ヲ始ト



















○石人方の物ボシハ九方之九方トハ學外ノ藝オドモヲ云本方ヲラスオハ前云如クムレシキ學問ヲ云或説政ノトイハド政事ノ學問ニアリト云世頃ノ常ナレバアタラス

○何ふいざんまいざん大士法界三昧普賢大士法界三昧普賢菩薩ノ徳ニ唐ノ西院和尚礼拜ノ詞モ法界三昧普賢菩薩云大論持菩薩為大士亦云居士也普賢ノ法界ヲ云ル形作ヲ三昧ト云セテ法界ノカナハナリ法師ノカウシ

○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク  
○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク  
○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク

○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク  
○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク  
○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク

講ノ時等三日ノ冬庄諸御捧物ヲ云カラ捧テ行導ル之江波弟ニ捧物三日冬庄

○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク  
○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク

○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク  
○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク

○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク  
○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク  
○何り何のりニ徳天皇ノ御時始テ掘久何ク































○こののの九テ元ノ御番足ルキ衣服モ  
 又俗ノネマキカイマキノ多ク且具迄モオシテ  
 云御ナラヌ常ノチバヨルノモノヨルノ衣下云リ  
 ○こののののやうら俗云番袋也下ノ井モ  
 ノヲ入ル袋云

○こののの直衣衣冠ノ躰云番井  
 義智説ニハウツクハ束帯ノ一之宿衣  
 直衣對ノ盡ノは束束ト云レヤ昔ハ御免  
 ナリテ宿衣直衣ニハ主上ノ御前へ出仕侍ラ  
 サル下ニ宿衣ハ衣冠ノ一之衣冠直衣ハ井  
 サラツクトテ踏ニハアナルノ束帯ハ袍ニ襲  
 アリ下襲ヲ除キテ指貫身丸ヲ衣冠ト云  
 ○このの訪俗トヒガトツレト云同クノモ  
 トモワガニ又モ自身ニモ書テモオトツレニ  
 フ意之應神紀ニハ訓セタリ又後世  
 フトウラハ跡ヲトシテ後ノ世イカニヤレ  
 クトワトクアツカフ意今モ云リ

○こののやえく時ヲフ意スベテ思フマニテ分  
 ナルヲ云  
 ○こののあくオハ心オクテワレヨリマサ  
 レルモノニ斟酌スル意之モハ席ヲ避ルヨリ  
 出允語云  
 ○こののの時テ取ヲ替ル意之横笛ノ巻ナ  
 ルニののハことよみこのののよみヤリヤ  
 中ノ多クハハカリ斟酌スル意之前ノ整クニ  
 同シキド是ハ下ナルモノニモヒテイサカカロヤ  
 ○こののの常ニイッモナツキヤ  
 カシキハ俗ノスイテヨレト思フ意ナリトコトト  
 ハトコトトコトコトコトコトコトコトコト  
 ○こののの常ニイッモメツラシク思フ意之哥ハ  
 大言亦カケテコトナリ  
 時めく書紀ニ時ト訓セタリ時トハ盛リノ意  
 ニテ時ヲヒ榮スルヲメクハヨミツケ允語云  
 ○こののの時ヲヒ盛リノイキホヒヲ以テノ意

行夜者内裏官人入近衛入起史一列運子  
 一刻迄大藏近衛二人内藏近衛二人起史一列運子  
 但右起史二列

又霜雪氷岳氷ナドカミリ古ノ如ク自ラケ  
 又元モ他ヨリトリヲモ云リ動カレ元ハ自他  
 ノ差別アリトケルトケテトケントケン  
 トケストケルトケルルイ自ラトキトキトキ  
 トカトカズ又下知トコソムズトケトケル  
 トキケル是ラ他ヨリトケルル上云ルハ大方ハ  
 自ラ之明又ナリ男女ノ和熟元モ又怨遣  
 恨ノルモ心オキナキ意之又物思ヒハルモ  
 氣元元キクワクノ俗ノ如クオトケテナドモ  
 云リトケルハ他ヨリ之自ラトケルトケルハ  
 俗語之徳ハ德行道德徳ヲ行ヒ又術ヲ  
 身ヲ得タルナズ又神代紀徳ノ字ヲイキモ  
 ト点スル如ク威徳ト云レモ同ク人ニ敬セラ俗ノ

身威ツク意之又盛衰記ニテ云ル也ニ  
 禽獸モカウノ徳ヲモツテ君ヲナヤマシ奉リケル  
 一ノヤリケルヨ是ハアヤシキ伎術ノ意又福ク  
 ノ意ナルモアリトケルルリトケルトケル今ハ  
 音ノ有徳人ト云リ又思徳ノ徳ヲ但言カケル  
 モアリ御々カガケ古クカケト云レ類語  
 ナリサカ用ガマ異之疾ハ早ニ俗ノキニ  
 ○このの時あつらふ時とらふあつらふ  
 時ナリケルノ電袋(舞ヒヲ失フヲ云  
 ○このの時を時替サズニテ時ヲウツサヌ云  
 奏スル之禁秘奏時事上古隨陰陽室過  
 奏云云丑机以後為明日布祝菓子時奏す  
 さいさいあつらひさいさいさいさいさい  
 りむりあつらひさいさいさいさいさい  
 けのあにがー時せふ子四つあつらひさい  
 りねるあつらひひて時の机をあつらひさい



○時... 故... 又... 又...

○と... ノ...

○と... 世...

○と... 下... モ...

ト... 人... 陰... 水... 上... 喜... 寅...

ト... 書... 之... 車... 為...

初... 八...

其...

ノ... 次... 佛... 噫... 世... 後... ば... ○... 廿... ガ... ナ... レ... い... 傳... 按...



カトニタリハイカニヤ思ハル方兼類林ニ論シ和訓禁モ心得カタト云リ允恭紀イテハ母  
其蘭一莖<sup>五根</sup>トタカ見エタリ是モ忍坂大中姫イマダトテ母ハ許オハシシハ  
南鶏造ト申人モトトシトヨビマ井ラセケルヲ腹立フツモ玉ル折イハ史記高祖紀當從  
王媪武負貫酒漢書臣如淳曰俗謂老母為阿負師古曰列女傳云魏曲沃負者  
魏大夫如耳之母也此則古語謂老母為負耳史記索隱負是婦人老宿之稱ト云リサレ  
皇國ト他國ハ此字ヲ用ル心異シ皇國ニテカ自ト云ハテ主ヨリ出女ハ内テリテ其事ハ  
トよのありり豊明<sup>トヨ</sup>之豊ハ稱<sup>タ</sup>之明ハモト大御酒ヲ食テ大御廢色<sup>オホミ</sup>ハ赤ラシマスヲ申セル  
ニテ大嘗會<sup>オホノケ</sup>祝詞ニ秋五百秋ヲ平久安久朝食<sup>オホノケ</sup>至豊明<sup>オホノケ</sup>坐<sup>オホノケ</sup>皇御孫命能<sup>オホノケ</sup>ト  
アルヲ以テミルベシ其大御酒食<sup>オホノケ</sup>テカホノカララシマスヨリ各ナルガ即只<sup>オホノケ</sup>トナレシ  
高貴<sup>オホノケ</sup>ノ人大嘗樂<sup>オホノケ</sup>シテ云但後<sup>オホノケ</sup>普通<sup>オホノケ</sup>ニハ年々新嘗會又一代ニ度大嘗會  
ニテ大方小志ヒカケ五節ノ舞姫イナト哥ヨシシナリサレド降狀<sup>オホノケ</sup>文テ意明<sup>オホノケ</sup>ラカニ陳  
狀<sup>オホノケ</sup>文云日本紀<sup>オホノケ</sup>宴ノ字ヲヨシ古語拾遺<sup>オホノケ</sup>ニ宴樂ト書リ元日節會ノ宣命トヨ  
アカリ<sup>オホノケ</sup>削シメト書ル西謂本朝月令云正曆八年正月<sup>オホノケ</sup>今日正月朔豐明<sup>オホノケ</sup>食云  
コレノナラズ曰馬瑞哥重陽新嘗<sup>オホノケ</sup>コラテ節會<sup>オホノケ</sup>トミナ豊明<sup>オホノケ</sup>ト書リサレトヨノアカリトハ  
節會<sup>オホノケ</sup>ヲ申ス之今ハ行事哥合三十一番右豊明<sup>オホノケ</sup>節會<sup>オホノケ</sup>ハ以<sup>オホノケ</sup>ぬめやきのゆめをわきめ  
おと<sup>オホノケ</sup>し<sup>オホノケ</sup>ら<sup>オホノケ</sup>ら<sup>オホノケ</sup>ら<sup>オホノケ</sup>の<sup>オホノケ</sup>人<sup>オホノケ</sup>住<sup>オホノケ</sup>オ<sup>オホノケ</sup>トヨ<sup>オホノケ</sup>トヨ<sup>オホノケ</sup>アカリトハ惣<sup>オホノケ</sup>シテ節會<sup>オホノケ</sup>ノ名<sup>オホノケ</sup>コラテ  
カラズ其子細ハ六百番<sup>オホノケ</sup>ハ成<sup>オホノケ</sup>ノ哥合<sup>オホノケ</sup>ササ<sup>オホノケ</sup>テ<sup>オホノケ</sup>汝<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>リ<sup>オホノケ</sup>シ<sup>オホノケ</sup>公事根元十月中辰日コト

年ノ箱ヲ神奉ラセテ今日君モ御食臣下モ玉ヲ故ニ節會<sup>オホノケ</sup>行<sup>オホノケ</sup>延喜式造酒司豊樂<sup>オホノケ</sup>日夏  
十九<sup>オホノケ</sup>豐<sup>オホノケ</sup>宴<sup>オホノケ</sup>見<sup>オホノケ</sup>セ<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>分<sup>オホノケ</sup>是<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>号<sup>オホノケ</sup>春<sup>オホノケ</sup>神武紀作大室於忍坂邑盛設宴饗<sup>オホノケ</sup>景行紀招群卿  
而宴<sup>オホノケ</sup>數<sup>オホノケ</sup>日<sup>オホノケ</sup>矣<sup>オホノケ</sup>云<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>豊<sup>オホノケ</sup>樂<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>日<sup>オホノケ</sup>群<sup>オホノケ</sup>卿<sup>オホノケ</sup>百<sup>オホノケ</sup>寮<sup>オホノケ</sup>必<sup>オホノケ</sup>情<sup>オホノケ</sup>在<sup>オホノケ</sup>戲<sup>オホノケ</sup>遊<sup>オホノケ</sup>不<sup>オホノケ</sup>存<sup>オホノケ</sup>國<sup>オホノケ</sup>家<sup>オホノケ</sup>上<sup>オホノケ</sup>件<sup>オホノケ</sup>通<sup>オホノケ</sup>リ<sup>オホノケ</sup>レ<sup>オホノケ</sup>テ<sup>オホノケ</sup>節<sup>オホノケ</sup>會<sup>オホノケ</sup>豊<sup>オホノケ</sup>  
宴<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>云<sup>オホノケ</sup>レ<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>後<sup>オホノケ</sup>廿<sup>オホノケ</sup>六<sup>オホノケ</sup>日<sup>オホノケ</sup>中<sup>オホノケ</sup>辰<sup>オホノケ</sup>日<sup>オホノケ</sup>新<sup>オホノケ</sup>嘗<sup>オホノケ</sup>節<sup>オホノケ</sup>會<sup>オホノケ</sup>限<sup>オホノケ</sup>レ<sup>オホノケ</sup>ル<sup>オホノケ</sup>カ<sup>オホノケ</sup>如<sup>オホノケ</sup>ク<sup>オホノケ</sup>ニ<sup>オホノケ</sup>是<sup>オホノケ</sup>ヲ<sup>オホノケ</sup>豊<sup>オホノケ</sup>明<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>節<sup>オホノケ</sup>會<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>云<sup>オホノケ</sup>  
但源語<sup>オホノケ</sup>ア<sup>オホノケ</sup>ゲ<sup>オホノケ</sup>卷<sup>オホノケ</sup>モ<sup>オホノケ</sup>ホ<sup>オホノケ</sup>五<sup>オホノケ</sup>月<sup>オホノケ</sup>中<sup>オホノケ</sup>辰<sup>オホノケ</sup>日<sup>オホノケ</sup>豊<sup>オホノケ</sup>明<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>節<sup>オホノケ</sup>會<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>云<sup>オホノケ</sup>  
○名<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>唐<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>井<sup>オホノケ</sup>ニ<sup>オホノケ</sup>テ<sup>オホノケ</sup>神<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>ヨ<sup>オホノケ</sup>リ<sup>オホノケ</sup>マ<sup>オホノケ</sup>ス<sup>オホノケ</sup>取<sup>オホノケ</sup>レ<sup>オホノケ</sup>バ<sup>オホノケ</sup>徹<sup>オホノケ</sup>シ<sup>オホノケ</sup>タ<sup>オホノケ</sup>ル<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>止<sup>オホノケ</sup>キ<sup>オホノケ</sup>標<sup>オホノケ</sup>立<sup>オホノケ</sup>モ<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>井<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>取<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>云<sup>オホノケ</sup>  
カ如<sup>オホノケ</sup>シ<sup>オホノケ</sup>サ<sup>オホノケ</sup>テ<sup>オホノケ</sup>古<sup>オホノケ</sup>書<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>リ<sup>オホノケ</sup>サ<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>云<sup>オホノケ</sup>モ<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>エ<sup>オホノケ</sup>ズ<sup>オホノケ</sup>伊<sup>オホノケ</sup>勢<sup>オホノケ</sup>兩<sup>オホノケ</sup>宮<sup>オホノケ</sup>儀<sup>オホノケ</sup>式<sup>オホノケ</sup>帳<sup>オホノケ</sup>ニ<sup>オホノケ</sup>ナ<sup>オホノケ</sup>シ<sup>オホノケ</sup>カ<sup>オホノケ</sup>中<sup>オホノケ</sup>六<sup>オホノケ</sup>御<sup>オホノケ</sup>門<sup>オホノケ</sup>十<sup>オホノケ</sup>間<sup>オホノケ</sup>於<sup>オホノケ</sup>昔<sup>オホノケ</sup>御  
門<sup>オホノケ</sup>三<sup>オホノケ</sup>間<sup>オホノケ</sup>於<sup>オホノケ</sup>不<sup>オホノケ</sup>嘗<sup>オホノケ</sup>御<sup>オホノケ</sup>門<sup>オホノケ</sup>八<sup>オホノケ</sup>間<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>アリ<sup>オホノケ</sup>此<sup>オホノケ</sup>フ<sup>オホノケ</sup>カ<sup>オホノケ</sup>ザ<sup>オホノケ</sup>ル<sup>オホノケ</sup>御<sup>オホノケ</sup>門<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>云<sup>オホノケ</sup>モ<sup>オホノケ</sup>今<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>リ<sup>オホノケ</sup>カ<sup>オホノケ</sup>和<sup>オホノケ</sup>名<sup>オホノケ</sup>枚<sup>オホノケ</sup>考<sup>オホノケ</sup>声<sup>オホノケ</sup>切<sup>オホノケ</sup>韻<sup>オホノケ</sup>云  
相<sup>オホノケ</sup>今<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>門<sup>オホノケ</sup>雞<sup>オホノケ</sup>栖<sup>オホノケ</sup>也<sup>オホノケ</sup>弁<sup>オホノケ</sup>色<sup>オホノケ</sup>立<sup>オホノケ</sup>成<sup>オホノケ</sup>云<sup>オホノケ</sup>雞<sup>オホノケ</sup>栖<sup>オホノケ</sup>鳥<sup>オホノケ</sup>居<sup>オホノケ</sup>也<sup>オホノケ</sup>楊<sup>オホノケ</sup>氏<sup>オホノケ</sup>說<sup>オホノケ</sup>同<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>アリ<sup>オホノケ</sup>即<sup>オホノケ</sup>門<sup>オホノケ</sup>戶<sup>オホノケ</sup>類<sup>オホノケ</sup>ニ<sup>オホノケ</sup>取<sup>オホノケ</sup>メ<sup>オホノケ</sup>タ<sup>オホノケ</sup>リ<sup>オホノケ</sup>サ<sup>オホノケ</sup>  
於<sup>オホノケ</sup>不<sup>オホノケ</sup>嘗<sup>オホノケ</sup>御<sup>オホノケ</sup>門<sup>オホノケ</sup>ヲ<sup>オホノケ</sup>鳥<sup>オホノケ</sup>居<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>思<sup>オホノケ</sup>フ<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>カ<sup>オホノケ</sup>ク<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>草<sup>オホノケ</sup>モ<sup>オホノケ</sup>テ<sup>オホノケ</sup>草<sup>オホノケ</sup>ヲ<sup>オホノケ</sup>草<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>御<sup>オホノケ</sup>門<sup>オホノケ</sup>ヲ<sup>オホノケ</sup>モ<sup>オホノケ</sup>云<sup>オホノケ</sup>今<sup>オホノケ</sup>モ<sup>オホノケ</sup>板<sup>オホノケ</sup>草<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>御<sup>オホノケ</sup>門<sup>オホノケ</sup>  
アリ<sup>オホノケ</sup>即<sup>オホノケ</sup>於<sup>オホノケ</sup>不<sup>オホノケ</sup>嘗<sup>オホノケ</sup>御<sup>オホノケ</sup>門<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>内<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>草<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>モ<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>草<sup>オホノケ</sup>ニ<sup>オホノケ</sup>カ<sup>オホノケ</sup>ギ<sup>オホノケ</sup>レ<sup>オホノケ</sup>バ<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>サ<sup>オホノケ</sup>テ<sup>オホノケ</sup>於<sup>オホノケ</sup>テ<sup>オホノケ</sup>宇<sup>オホノケ</sup>倍<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>訓<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>古<sup>オホノケ</sup>代<sup>オホノケ</sup>常<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>一<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>太<sup>オホノケ</sup>室  
元年記正月山於憶良トアルヲ和銅七年記正月山上憶良作キ又外宮儀式御衣  
東御<sup>オホノケ</sup>床<sup>オホノケ</sup>於<sup>オホノケ</sup>敷<sup>オホノケ</sup>細<sup>オホノケ</sup>布<sup>オホノケ</sup>脚<sup>オホノケ</sup>帳<sup>オホノケ</sup>於<sup>オホノケ</sup>覆<sup>オホノケ</sup>帛<sup>オホノケ</sup>御<sup>オホノケ</sup>被<sup>オホノケ</sup>又<sup>オホノケ</sup>五<sup>オホノケ</sup>葉<sup>オホノケ</sup>十<sup>オホノケ</sup>哥<sup>オホノケ</sup>劍<sup>オホノケ</sup>刀<sup>オホノケ</sup>諸<sup>オホノケ</sup>刃<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>於<sup>オホノケ</sup>荷<sup>オホノケ</sup>同<sup>オホノケ</sup>十九<sup>オホノケ</sup>哥<sup>オホノケ</sup>  
寺<sup>オホノケ</sup>井<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>於<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>和<sup>オホノケ</sup>名<sup>オホノケ</sup>枚<sup>オホノケ</sup>河<sup>オホノケ</sup>内<sup>オホノケ</sup>國<sup>オホノケ</sup>志<sup>オホノケ</sup>紀<sup>オホノケ</sup>郎<sup>オホノケ</sup>井<sup>オホノケ</sup>於<sup>オホノケ</sup>井<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>見<sup>オホノケ</sup>エ  
○ト<sup>オホノケ</sup>と<sup>オホノケ</sup>と<sup>オホノケ</sup>つ<sup>オホノケ</sup>十<sup>オホノケ</sup>列<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>東<sup>オホノケ</sup>邊<sup>オホノケ</sup>舞<sup>オホノケ</sup>人<sup>オホノケ</sup>十<sup>オホノケ</sup>人<sup>オホノケ</sup>馬<sup>オホノケ</sup>ヲ<sup>オホノケ</sup>采<sup>オホノケ</sup>テ<sup>オホノケ</sup>○ト<sup>オホノケ</sup>と<sup>オホノケ</sup>や<sup>オホノケ</sup>ま<sup>オホノケ</sup>外<sup>オホノケ</sup>山<sup>オホノケ</sup>ヲ<sup>オホノケ</sup>門<sup>オホノケ</sup>ノ<sup>オホノケ</sup>意<sup>オホノケ</sup>之<sup>オホノケ</sup>奥<sup>オホノケ</sup>山<sup>オホノケ</sup>對<sup>オホノケ</sup>シ<sup>オホノケ</sup>テ<sup>オホノケ</sup>出<sup>オホノケ</sup>意<sup>オホノケ</sup>  
供奉スルヲ云神社ノ行幸<sup>オホノケ</sup>閑<sup>オホノケ</sup>白<sup>オホノケ</sup>如<sup>オホノケ</sup>茂<sup>オホノケ</sup>春日<sup>オホノケ</sup>○ト<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>處<sup>オホノケ</sup>ニ<sup>オホノケ</sup>ハ<sup>オホノケ</sup>處<sup>オホノケ</sup>ヲ<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>云<sup>オホノケ</sup>例<sup>オホノケ</sup>多<sup>オホノケ</sup>シ<sup>オホノケ</sup>立<sup>オホノケ</sup>處<sup>オホノケ</sup>伏<sup>オホノケ</sup>見<sup>オホノケ</sup>  
諸<sup>オホノケ</sup>ナ<sup>オホノケ</sup>ド<sup>オホノケ</sup>ニ<sup>オホノケ</sup>召<sup>オホノケ</sup>貝<sup>オホノケ</sup>社<sup>オホノケ</sup>頭<sup>オホノケ</sup>ヲ<sup>オホノケ</sup>求<sup>オホノケ</sup>子<sup>オホノケ</sup>ナ<sup>オホノケ</sup>ド<sup>オホノケ</sup>舞<sup>オホノケ</sup>シ<sup>オホノケ</sup>  
○<sup>オホノケ</sup>宿<sup>オホノケ</sup>處<sup>オホノケ</sup>祿<sup>オホノケ</sup>度<sup>オホノケ</sup>ト<sup>オホノケ</sup>カ<sup>オホノケ</sup>リ<sup>オホノケ</sup>後<sup>オホノケ</sup>處<sup>オホノケ</sup>ナ<sup>オホノケ</sup>ド<sup>オホノケ</sup>如<sup>オホノケ</sup>シ<sup>オホノケ</sup>弘<sup>オホノケ</sup>仁<sup>オホノケ</sup>私



○とせ年ヲ常ニハトシト云テ其教ヲ云ニハ

凡テニタトセニトセナドレト云トセハ年經ニ

ハセト切レリ穀ヲ一度取收ルヲ一年經ト云ニ

度取收ルヲ二年經ト云ニ故トセトハ其ノ

カスハ時ニ限リテ云ヒトシト云ズ

○<sup>さうき</sup>取テ捧ヲ持テ中者ノ物語文ナ

ドニ御盃取トナルモ多クハサテテニサテ今

ノ世ハ酒盃公前ニテキタルヲ取テテ各ノ

氏支ハ然テ捧ヲ持テ奉ル人ノテヨリタニ

取テノミシト

○トハヤノ秘ハトヘト延テトハヒト云又延テト

ハサネト云ニコハ行ヲテサネ谷告ヲナラサ

ネナト云ニ同ク此例イト多ク

○トトヨクヤウナハハナリ訓リ榮花物語駒

ク入ノ巻ニ九月（つばき）ト云リトヲカアリヤウ

カト云キヲ略キテ云ハカバレトモ上カヲ略サ

ルハサネテ云ニ今テ人上カヲ云ニテトヲア

○マリヤウカトヤウニ書ハ古ノ例ニタカリ

○トヨドろノチレリクアヤカレト云神祇紀

ニ大小魚ノ三事ヨ、オヒロクサキイナト訓リ大ノ

字ヲトオシリト訓セタルハ大ナレバイナシクサ

ヤカナル故ニサレドソハカハテ時タルト云

○トヨドろノチレリクアヤカレト云神祇紀

ニ大小魚ノ三事ヨ、オヒロクサキイナト訓リ大ノ

字ヲトオシリト訓セタルハ大ナレバイナシクサ

ヤカナル故ニサレドソハカハテ時タルト云

○トヨドろノチレリクアヤカレト云神祇紀

ニ大小魚ノ三事ヨ、オヒロクサキイナト訓リ大ノ

字ヲトオシリト訓セタルハ大ナレバイナシクサ

ヤカナル故ニサレドソハカハテ時タルト云

記序古語謂君位為止トナルモ處ノ意

ヨリ出タリ

○<sup>さうき</sup>鳥ノ訓ハ非ガテト云テ鳥ヲトク

訓イハ鳥取鳥羽鳥緋鳥鳩ナドノ類ヒ

鳥ニ因レル言ヲ下ニツバクルルノミ云コト

○トトヨク嫁ノ字ヲヨム故ニタメ女ノ男ヲテ

テニツカヒサラズス鎮火祭ノ祝詞神伊佐

奈伎伊佐奈美命妹ニ柱嫁緋給成

ト有テタメ男女アフトレバ何カヨリモ云

ト古今著聞集天野遠景ト云モノ

ヲ云レ條ニ度邊テ番ガ妹トツキニケリト

男ノ方モ云リ其項追此言古ノ意ヲ失ハ

ザリシ又メアハスト云ハ女子ヲ男ニ親ノ

凡テテニ耶フメド然ラズ古事記ニ自

合ス不書レ意テ是モタメ男女逢テテ何

カヨリモ云語

○トヨドろノチレリクアヤカレト云神祇紀

ニ大小魚ノ三事ヨ、オヒロクサキイナト訓リ大ノ

字ヲトオシリト訓セタルハ大ナレバイナシクサ

ヤカナル故ニサレドソハカハテ時タルト云

○トヨドろノチレリクアヤカレト云神祇紀

ニ大小魚ノ三事ヨ、オヒロクサキイナト訓リ大ノ

字ヲトオシリト訓セタルハ大ナレバイナシクサ

ヤカナル故ニサレドソハカハテ時タルト云

○トヨドろノチレリクアヤカレト云神祇紀

ニ大小魚ノ三事ヨ、オヒロクサキイナト訓リ大ノ

字ヲトオシリト訓セタルハ大ナレバイナシクサ

ヤカナル故ニサレドソハカハテ時タルト云

○トヨドろノチレリクアヤカレト云神祇紀

ニ大小魚ノ三事ヨ、オヒロクサキイナト訓リ大ノ

字ヲトオシリト訓セタルハ大ナレバイナシクサ

ヤカナル故ニサレドソハカハテ時タルト云

○トヨドろノチレリクアヤカレト云神祇紀

ニ大小魚ノ三事ヨ、オヒロクサキイナト訓リ大ノ



故ニ元テ是ハ百官ニ就テ云ルニサレバ畫分リ  
アラハサテ詔ノ字ハ請神加歟詔之詔又詔祝  
下ラバカ祚トハ云ストニハマテ口祚ヲ稱意ハ  
之使臣敗セナド佳セリ  
伴之部トレシモヲ者キテ人ヲ細レバ不ナリ  
○とのくものりハ棚ケモリ同ジ

○とこの世の心カリ名ツケ名國ノ心ハ非大何言レ此皇國ヲ遙隔リ分レテ々々スヲ往還カ  
タキ處ヲヒロク云名ノ義ハ底依國ヲ夕々絶遠國ト由ニ由ハハコラトフ通ハシ云々又ソコ  
遠ク姓アリテ極ニ極ニ受テ兼ニ天雲乃  
爾ラ上代ニ常世國ト云ハ皆此意ノ外ナシ古事記上卷御毛  
浴布跳伎穗後坐常世國中卷玉垣宮段ニ多遲麻毛理遠常世國令求登伎士玳能迦玳能  
水實ト見え又常世哥ニ作ノ柱遷魂ヲ云ナド皆是ニサテ又後ハ人死スルヲ常世國ニ行ト  
云レテアリコハ極ニ遠キ取テ使モク柱遷下モ叶ハ又意ニ右ノ意ヨリ傳レタルモ二コ葉  
四常世ニ跡吾行莫國カ云々サテ又人モ何モトフトハシテ受テ死ス萬ツラテタキ國常  
世國ト云ルイアリ是ハカララゴトニ依ルテ多年世ナリテ彼取謂蓬萊ナドノ説ヨリテ世ニ  
云ホレト遠キ國ヲ云其名ヲ借レルモ一カノ蓬萊ナド云ナル船モ海路遙カニ隔リテ至リ  
カタキ取ト云ナレバ此方取謂常世國是ニ似タル上又トフトハシテ變ラヌイヲモ常世ト云イサアリテ  
其名迄相叶ハ故テ借レテ以テ附會タルモ一然レテ後ノ世ノ人ハタハ常世ト書ル文字ニ  
泥テ又僕ノ蓬萊イテノ思ヒテ上代ノ意ヲ深ク考ヘサレ故ニ不變不死ヲ常世國ト云  
義ト得居ハ非トト不變不死ノ意ニアルハハ兼四吾妹兒者常世國カ往來良思者  
見從妻若益尔家利五等已與能久尔能阿麻越等七實可忘九詠水江浦島子

哥ニ常世亦至云々老目不為死不為而永世ホ有家留子物ニ是ラ之書紀雄略卷三此  
浦島子カイヲ記サレ允ハ疑ハシキカ上ニ列蓬萊山下書レタルハ彼紀ノ癖トシテ僕ヲマシラ  
レシナレバメ迷フコト又垂仁卷ニ彼田道間守ガ言是常世國則神仙秘區云々此語モ  
後世ノ漢籍ノ蓬萊ノイナドヲ思ヒテ書添ラレタル潤色ノ文ニテサラ上代ノ言ヲラスサテ常  
世ニシノケチナマリツハ常夜ノ長鳴鳥常世ノ思金ノ神ナドアル是ニコハ常夜ノ意ニツニ夫  
長谷天皇大御哥ニ麻比須流表美那登許余尔母加母書紀垂仁卷ニ伊勢國則常世ニ  
浪童浪婦國也顯宗卷室壽師詞ニ拍上卿吾常世舞百葉一我國者常世亦成年ニラ  
ニコハ字ノ如クトコトハニシテ不變イヲ云リニハ初云常世國是之右ニ其言ハ同ケレハ  
其意ハ各異シテ相誤スニラ同意ニ心得ルハ深ク考ヘサル誤ニ  
○とこのハとせと如髪之兒ノ四歳ハカリ時髪ノ未切初テ是ヲ深キト云サテ八歳迄  
其髪ノ未切肩ト拍ク切ナリ是ヲ放髪尼振分髪尼云是ヨリ下ハ髪ヲ以テ年ノ足行ヲ云  
ハ歳ノ後ハ髪ヲカガスマ長カラシムレバ振分髪モ肩ヲ又ハ云リ  
○友中ノ一書サキニラリし粟ヲ消殘リテ又フル粟ヲ待ツルヲ云家持集ニ花妙ノ名ハサカ  
子ハ梅ノ枝ノなまの書ぞ消殘リとる貫之集梅の花鳴もあざやとてし  
コトハ中ノ粟のこもりん詩人玉屑殘粟テ一ニ待伴トあり和漢印同キカ又此語言レ  
ニヤ唐ノ世ヨリアル詞ニ  
○豊後物ノサハシテ足ヒ饒心ノ意ノイマテ後  
○とこの世とハ年ノ長リ續クイニ云リ  
豊後豊原中国豊明豊上豊壽ト云























サレド古ハ後ノミニイヒテ大方ハタカフトシ

ミナリ後々モ大方前ノチカフ意ニラケテヨリ

着通ニタカフニミルコサク見及ズ

ぢんぐろ 香木之水ニテ浮ク物ヲ浅香

云沈ムモノヲ沈香ト云

○ぢん陣トハ其官人ノ居ル所ヲ云枕草子

大急ノのちんなどふる上人あまのちり

ねどし〜抄西諸門ハ右イ門守リテ直

秋コシ右イ門守之東諸門ハ左イ門守リテ

建春門左イ門守云

○ちやうぶきもり 長奉送使ニ春宮ヲ

伊勢送送リ下ル人ヲ云

○ちやうりの林 道禰ノ神ト云言テ海陸

イヅリテモ道ノホトリノ行合ノ神主佐記

ワツツのちやうりの神おもゆるぬの

追れやあすあふぬん道ヲキト云ハ姓氏

録ニ道守氏アリ神中抄やくりあふ

ハテニケト云

ちりち、十木ニギヒ云共ニ脰木ニテ和名抄ニ

柘比知木。功程式ニ云脰木ト凡ノ異物ニ

此ヒダノ下ヲ省ケルト上ヲ省ケルトノ差ミ

ナレバ本ツノ名也故言通ハシ云之神祇式

祝詞ニ高天原カキ木高知皇御孫命リ

御舎ニズベテ物ノ形ノカクノ如クシテヒギト

云チノ脰モ此意ニテ名付タリ又ヒナ金

ヒナ折ナドモ固シ其比ハモトフリノ約クタルテ

フリトハ右ノ形ノ如ク本ハツテ左右ホカ

シタル物ヲ云和名抄ニ杖極方言云河東

詔樹岐曰杖極和名ホ多布理ナド云是振

分髪ト云モ頭上ヨリ左右カシサマシ云又

俗ニ道程ナドヲ云此處ト彼處トノ中央處

ヲフリカケト云モ是ヨリ出タリサテ此氷木ト

云モノハ上代ノ家造リニ屋ノ端ニテリテ

其本ハ前後軒ヨリニテキテ棟ニテ行合ヲ

え〜ともむがこのちやうりの林といのち

〜抄

○ちやう宮 職原抄注云中宮始者光仁

帝天應元年四月始置中宮職是也

○ぢ〜 花鳥ニ唐ムシニ大テノ高麗

ベリヲ付タルモノニ或云蓮ノヤウニヨロソ下ニ

シリモノト云リ

○ぢす 帙篋ノ竹ヲスミタタ文ヲキ

巻物ノ長ケル篋ノ面ニ錦ヲオキテ縁ヲ

サシテクミノ緒ヲツケタルニ經ヲツクモノニ

書紀ニ菅卷テフニキト訓ヲ抄ノイニサレ

ド經ハ帙ト云ナレテフニキトハズ

○ぢ〜 琴瑟ノ琴瑟ハ

柸ト云ナリ左ノ手ニテアシラヒ調子ヲトシ

〜彈リトナリ

○ちや〜 漆ト子ニ漆也之世色ハ

西宮高明公漆出玉ト云今俗ト子茶ト

組違テ其エヲ長ク上出タル物ニテ其棟

ヨリ上高ク出ル處ヲ氷木ト云ホ氏云貞

和銘紀組目ノ上ヲ謂チ木組目ノ下ヲ謂

樽凡トアリ後共別ニ作ルモアリ伊勢ニ檜

ノ末ヲ切ス直ニチ木用ルニチ木ノ端ヲ換ク

伊勢内宮外宮内ヲ換ト外ヲ換トノ差アリ

尾張人吉見氏カ元如ク内宮外宮トサコテ

カタルノミニ世俗ノ取謂陰陽等ニ差別ア

ルヲ云ス

○ちおも 和名抄云辨色立成云嬬母

トアリちもモ同シ万葉ニチヤ〜モ老

小ルルル如クワセシガも〜ちもよ

〜と

○ちり〜 ちり〜ウキサテ座ノ世トシテ出

家ノ世世スルヲ出座トハナリ

地ノ如キ〜 おき〜 新敷云地紋ノキ

ヲ云〜 コノカギリハノミ是ハカリノカギリ











へたれニツチヲヌリコノト云ヌリゴノノ様今昔物  
語ニシユ

○ぬー宣長云何ノ大人ト云ノウノ約ヲミテ  
ヌレト云ナレバ何ノヌレトハ云ヘカラス古言ニ  
ナレト云中頃ヨリ何ノヌレト云ヘレド古又ノサ

ヲ書ニハ書マシキニテ葎云世説ヤタラス  
アガノ詞則之ヲレバツガト云ヒテノウシ  
トハ云ベカラス又トウレ通ヒテ又レウシ

同語ニサレド古クハウシトノミ云キ今葉ス  
ルニ中ツ世ニハウシト云フナレトナヌレト云  
ツケタレハ中世ノ書ガキニナラハハウシト云

○ぬむむ野羽玉ニ或云鳥扇ノ葉ハ羽似ル  
故ニ此草ヲ野羽ト名ケ其實ヲ野羽玉トハ  
云ニト云リ信ニ鳥扇ト云又今俗ニ檜扇ト

云モ葉ノ夫クニ似ル由ニ此實イト黒キ物

又ハナヌネノ通音ニテテニ通ル

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

故黒キト暗キト夜ナドノ枕詞ニ後妹ニカルハ  
麻ノ一言ニツケケルノ寤モ夜ルモノナレ

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

ニハ大方又サトヨミタリ和名抄幣帛和名  
美天久良ロアリテヌサ訓ナ朝野群

載セニ出京関間奉幣道祖神変云即  
今行願途申平安之由ぬるむ身ニ熱ナルヲ云

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

ヲ代表ニ入テ持行テ道ノ神キチラニテ  
行ヲ云ニ

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

鳥カケ同ジサヌツ鳥岐藝ストモアリ佐ハ

真ノ方葉ナクサツツ鳥トノ云ルモ雉ノ  
サテ雉ハ和名抄ニハ木ノ須一云木之トアリ

凡古クハナキジリ云リ可葉十四モ古藝  
志トアリ他ノ巻雉トアルモナキジリト

訓ベキ今ノ本ニキバト訓ルハ古ヘテ知  
又誤ニ

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也

○ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也  
ぬるむ身ニ熱ナルヲ云若葉巻ル也



○るあよれて類之ル井ハクダヒノ音語ヲ  
一家一門又チカリノ者ヲモ云其縁ヒキキ節  
ニツイテナリ

○<sup>オノ</sup>アトハ照れれどル文字ツ削れべし  
スベテトウリル照ハルト云ヌ定マリ

○るあふい累代ノ朝野群載累代之  
高材猶出此處吉郷記累代御物之外  
惣載海船可謂違例代ヲカサ不代ト  
云ニカ如し

○るいんニ界中ハ流轉事方中恩愛不  
能断并思入無為真實報恩者ノ經云

無量壽經下曰生死流轉無有休止佛說  
五無返復經三曰世間俗人無數劫未流轉  
生死還神不滅死而復生如車輪轉無有  
休息

○る俗云カエ訓ナリテルト云例心ノツグ取故  
何ヲモカリニ文字ヲ添テ解スニ辨語ノヤ  
シト甲ノ<sup>シ</sup>訓志<sup>ハ</sup>例<sup>ノ</sup>ツグ<sup>ノ</sup>リ<sup>ト</sup>云

モタル女ト云フヲクマ丸之又同<sup>ル</sup>ヨ  
ハラカラナル男ト云意又同ト云テ<sup>ト</sup>車  
セ<sup>ハ</sup>ハ<sup>カ</sup>ノ<sup>ヨ</sup>ト<sup>ヨ</sup>リ<sup>ノ</sup>ハ<sup>ケ</sup>ル<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>云

字ヲツテ<sup>ハ</sup>心得<sup>ヤ</sup>ス<sup>ハ</sup>藤<sup>ノ</sup>稿<sup>ノ</sup>卷<sup>ヲ</sup>自  
う<sup>ガ</sup>い<sup>ハ</sup>た<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>い<sup>ハ</sup>も<sup>サ</sup>ら<sup>ハ</sup>り<sup>ト</sup>云

人<sup>ノ</sup>お<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>り<sup>ト</sup>云  
ま<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>タ<sup>グ</sup>ヒ<sup>ト</sup>猶<sup>ヤ</sup>リ

○るりのつり瑠璃<sup>ノ</sup>書<sup>也</sup>和名<sup>ニ</sup>孫<sup>ノ</sup>切<sup>切</sup>續<sup>云</sup>  
甄<sup>ノ</sup>時<sup>ノ</sup>及<sup>ハ</sup>俗<sup>ノ</sup>語<sup>云</sup>書<sup>ノ</sup>縁<sup>ノ</sup>謂<sup>ハ</sup>口<sup>ノ</sup>邊<sup>也</sup>甄<sup>ハ</sup>シ<sup>キ</sup>ノ  
ハ<sup>タ</sup>ニ<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>注<sup>ニ</sup>書<sup>ノ</sup>縁<sup>ト</sup>ヤ<sup>レ</sup>書<sup>ノ</sup>字<sup>ヲ</sup>ツ<sup>キ</sup>ト<sup>モ</sup>  
コムベキヤ



○をヤシク専ラハ意之俗言ノアマリト云ニ能ク凡語ニ

○ツギノツギ折カシキニ似ツキタリト云語ニ

○をこめりて和名林蠢イノワウ無スルハ蠢動揺顔也ウイヨト五音通ス啓塾ニナリテ

○をこめりて應神紀伊夜干古珥イノワウ辞豆古事記ハ表許ト書リアホウラシキヲ云

○谷川士清云コハモト國ノ名後漢南夷傳ニ鳥許人ノコト委ク見エタリ笑ハシキト

○多カリト云リ俗言アホウラシキヲナツラハシキトモ云

○をこめりてりり 錦明紀今臣不賞成イノワウ

○務紀ハ不肖ヲ訓セタリサレバマカシキ心ナク愚ナルヲ云知者ヲをこめりト云モ又世意

○をこめりて身ノ誤リヨ云後ノ世誤リ請長キ誤リヨルヨリヨレドハ働リ居有ト格ニ活リ言ナリ語ノ終ニヨリト云ハ後ノ世ノ意ニ如何ト思フベレド終リテモヲリト云フニナルト綴ルハ上ニソ又ハヤナド云語ナル中ノ一ニ

○をこめりて身ノ誤リヨ云後ノ世誤リ請文ヲ首ハ急狀ト云リノケダヒスルヲモをこめりト云男如ノ間ニテハ左ノ心又ハサタノ意ナルをこめりヤリ前ノコトナリハ別ニサレド元同ジ

○をこめりて身ノ誤リヨ云後ノ世誤リ請云ニ夫々サシテ云フ取ミ有リ

○をトにノテニヲハをハ彼ヨリ云言ニハ家ヨリ云言ニテ彼家ノ差別アリト事記

○アフヤトトノヲトアルヲノ言モヲトメノ方ヨリ取ニアフ



タルモノトアル類ニテ脊ノタノ由レルヲ云ハ○  
脊ノ長キガガリムネツブルト云ホドモアラ  
シヤ

○をとりし古ハナドメト對フ稱ニテ記ニ訓壯

夫云初等許下トエ書紀ニ女男此云鳥寺○  
孤城ハ端ナドアリ萬葉モ壯士ト書テ若  
ク壯ル男ヲ云リ老タル若キヲ云又男ト云  
後ノ言ニ於テ後字書ルモ非シ

○をとりし男ニ對ヒテ若ク壯ナル如ク云稱萬

葉ニ處女未通女ト書レバイマ夫々女ヲ○  
云ニ似タレ然ラズ倭建命ノ御哥ニ宮貴姫  
ノイヲヲトメトノ丑ニ輕ノ太子ノ輕大郎女ニ  
好テ後ノ御哥ニ加流乃表登賣トヨ○  
玉ヘリコレヲトツギテ後ヨ云又童女ナルヲモ云  
ルイ多シ男ハ童ナルヲバ云ズ元服スルヲ壯士ニ  
ナルト云ルモテモシレベシ女ハ童女ヲモ云ハヒタ  
スラニ若キヲ愛ハ故ニアラシ書紀ニ女奴

をとりし夫ノワトハ人ニ俗ニツト云ハ詠リニ  
一云平止古又後夫ハ和名宇賀守前夫ハ和名  
之知子ト見え是ラミナヲホトシタル稱之  
故夫ヲ表ト云ヒコジレ云リ

○をとりし雨ノシニカギラス若菜ノ巻ニ朱

菅院院ノ御病ノイヲウチウチモえと云  
那ノイハ海ノイハ云ニ病モ云リ

○をとりしぬすちヲサメテコレズコラヘラレヌ

スナト云フ  
をとりし久時延之時長クツクヨムヨリハ  
エテ鳴ナドハ時長ク間モナシ鳴ヲ云  
を世ヲノ字多ク刊ノ字ノ下ニカフ語ニ  
ワリ子ノイハ云ニ色ノ下ナドルイヨニ通フ  
カニ又俗ニ云ハバタニテ如キヲアリ但直爾云  
人ニワリハ人ノ旅ダツ之人ノワリハ我  
旅ダツ之古今ニ旅ハ故ト人ニワリハ人  
よめハ世貞則ガ説カテラス人ニワリハト

幼婦ヲ訓和名抄小女和名童女上同レバ

童ナルヲモ云サレド成長ラズト訓エレド記ニ  
婚此童女トエ又萬葉六ニ漁童女ト見エ  
レバ無下ニイヒキナキニ非ス但文章ニハ天女  
五節ノ舞姫ナドノ外ハ女トノミカケリ

○と山ノ峯山ノ尾ノヲレ丸テ山ニヲト云ルニツ

アリツハ高キ形ヲ云古書ニ高キ形ヲ云フニ  
多ク峽ノ字ヲ用ヒタリ山ノ間ヲ云ハアラズ  
峽ノ字ハ備字ニ此峽又ハ尾ノヲ書紀ニハ  
血ト書レタリ方葉ニ向峯ハ峯ノ上  
ナド峯ノ字ヲ書ルハ高キ形ナルヲ以テ  
ニ然レハ別ハ必シモ峯ニハ限ラス尾ノ上ト云ハ  
峯ノイト思フハクハミカラズ又困ノヲ困ハ

高キ形ヲ表ト云ニカヲ添タル名ニカハ○  
スミカアリカナドノカト同ク處ト云意ニ  
坂ノカモ同シサレバ丘ノ字ナド表ニモ困ニモ  
通ハシ用ヒタリ萬葉ニ向困トモ書リ

云モ人ノイワリト云モ同シク之萬葉ニクヤ

シク妹ヲワカレキニケリ又タラチネノ母ヲ  
別レテマエトワレタゼノカリオニヤスクネカモ  
コレヲ我カ行トキノワカレニ又ヒタスラ切ニ弟  
アリ竹川の花をいし物しと思ひて久  
の老をすめあふをいひつらひひつらひ  
りら又ヨニ通ヒテ深印ニ云中ノ詞ナルアリ  
多クハ古知ノ氏又ヨノ意アルアリタギリ巻  
元ノ字ニととりしととの物ありありとせ  
ゆのいぬ海舟の巻ありありとととととと  
那のいぬ又物をい意ナレをアリ又物語文  
ノカ物をノ列テカロキ意ナルアリ味ヒテレ  
ルベシ

○と唯ニ答フル声ニキキノ巻ゾグハ

近所の老いあふととととととととととと  
げととととととととととととととととと  
同じまのわき橋ニととととととととととと







アルヲ夫ヲ知リ云しコト知べし

○とりの松庭ノ算燈水云算燈ノ巻ニ抄

ねおどろり〜かぬ月どにおきてさ

〜志ぞもく〜

アルハ折松ノ寫し誤リ一折ノ字打ノ字似

カヨヒタルバ之弁内侍日記ニ人のどのこ

とも殿上のをりおめ〜

〜やれもさびひろ水所ノ北むきまで

ひき〜る秋の枝〜

りり〜

〜おどろり〜

〜おどろり〜

○と〜男々〜之少〜極キ意〜俗ニ云

男ラ〜キトリ云道〜少崇神紀ニ幼好雄略

綏靖紀少有雄拔之氣

○と〜次犯〜カストハ何〜ス〜マ〜キ〜

マ〜キ〜ト〜シ〜リ〜フ〜ス〜ル〜云〜飛科ニハ上ヨリ

ムカシニ歸ルヨ云同五ニワガサカリイタツクダ

チ又雲ニトリブ蘇公トモ又平知ノヤモ同十

七家持尊ノ長哥ニ抄バシモ平知

カヤスキ云〜

本ノキ〜返リクルイ〜モヨキヨ云同七ノ巻ニ

ガ宿ニ咲ルナデ〜ヒ〜ヒ〜セ〜ム〜ノ花〜ル〜ナイヤ

ヲ子ニサケ是モ又始ヘカ〜リ〜レ〜イ〜ヨ〜ク〜

シクサケレ云〜

○女ル〜是ハ〜サトイハ〜ル〜カラニ何レノ女ナリ

凡ノ意ニ夕霧ノ巻女〜

ヤ〜ン〜キ〜習〜巻〜女〜イ〜チ〜色〜つ〜ふ〜

〜む〜や〜ん〜り〜ナ〜ホ〜多〜人〜又〜家〜身〜女〜ナ〜ラ〜

意ナルモアリ又打向フ人ヲ女ニシテ

家達タキトリ意ナルモアリ

○と〜の〜え〜述〜異〜記〜上〜信〜安〜郡〜有〜石〜室〜古〜音

時王曾伐木至見童子數人暴而歌贊

因聽之質紀視介柯爛畫既師無時

定メオカル、制ヲシリツ〜シノギスルヲ云浪風 人

ナドニ云ハ人ノエタヘヌアラキ浪風ヲモ物トモ

セズシノギ物スルガヒ之爾雅ノ秋詔ニ花

勝也詔、陵祀得勝也トアリ凡テ此意モテ

知べし

○と〜グ〜む〜拜〜之書紀推古卷哥〜鳥〜呂〜鐵〜強〜豆〜菟〜伽〜倍〜摩〜都〜羅〜武〜私〜記〜謂〜拜〜為〜平〜加〜無

言子礼加々無也ト云リヨラ省ケル言ニテ身ヲ屈メテ

伊波比拜トアルト同シ伊ハ祭語ニテハヒヲロガ〜

得タルヲ佛法ノ拜ヨリ云ル非〜之又尊ム〜キ物ヲ見奉ル〜

キ〜ノ〜サ〜テ〜長〜瀬〜ノ〜真〜幸〜カ〜リ〜上〜代〜ノ〜拜〜礼〜ノ〜儀〜ハ〜今〜世〜俗〜ノ〜人〜ノ〜礼〜ヲ〜為〜ル〜ト〜云〜為〜狀

ノ如ク俯テ頭ヲ下ケ両手ヲ衝テ拜〜

シテ云、於中床則據其兩手ト〜

兩脚跪之越柵則立行ト見エ漢籍魏志ノ皇國傳毛傳

據地為之恭敬ト云リ是ヲ見ルニチヲ據テ敬ヒト〜

武天皇慶雲元年正月始停百官跪伏之禮トアル是ヨリ

ニシレケム然レ氏同四年十月ノ詔ニ往年有詔停跪伏之礼

不嚴肅進退無礼陳答失度云、宜自今以後嚴加礼

彈革其幣俗使靡

人

と〜ど〜ろ〜り〜カ〜キ〜ク〜ス〜之〜後〜ラ〜ス〜ア〜交〜後〜ラ

スハカノ部ナリ須ニク巻〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜

〜と〜ど〜ろ〜り〜











○とちやヲト同ク是モ領納シタル語俗言ニナトモ云リ  
ニツイリヨ成ホドク領納スルヲ云

○甲踏哥正月十四日之年中行事哥合踏  
哥節會身世このとのおとさすすめり舞并  
りぬりふのついのちろちのちろ右踏

哥ノ節會ハ正月十四日男踏哥ノイテ侍志  
此頃行し侍ルハ女踏哥ナ有之大方都遊王  
ノ声アリモノウタクヲメシテ年ノ始ノ祝ヒ  
詞ヲ作りテ舞ヲマセラレル之古ハ女踏  
哥ト隣年ニ行レケト見ユコトト男

踏哥ト云く右ノ通リ市町ノ者ノ召レ允  
ニ後ニ殿上地下四位以下ノ輩迄舞遊ヲウ  
ニナリシクサテ也ルベキ暇ヲメグリテ催馬  
樂ヲウメ七舞ヲカサテ山融院ノ元六  
年正月男踏哥アリ其後ハ記録ナド取  
見ナシ其儀式新儀式西宮抄ナリ古語云  
アラバシトヨト云宣言譜女良乳末之利云

○とちこち 此方彼方ヲ云サテヲナリト云語  
此ノ用ヒサマリ其ハイツモノ如ク此方ニ  
對テ彼方ヲ云近キニ對テ遠キヲ云モ其  
意同シ今ツハ只折見ヤリタルサマニヒテ  
俗ニ彼方又彼ノ云ト云意之自極巻歌  
ニ鳥智可掩能阿婆奴能根始此モチチノ葉  
根ト云意ナリ  
大枝詞彼方乃舞木本子此モアラフ方  
ノト云ニナリ  
云ノ類

○とちこちハ二種アル似ルナリ其一ツ常  
ニ云彼方今ハ定家御捨遺意草云とち  
加いやくのち道小意のりゆ歌か  
やぬりやの格取マタイてもなぬくは  
てとりんすくくろのちのちのちのち  
か此等ハ治ノ彼方ノ地遠キ意ヲ兼  
テメルニ神名式山城国宇治郡彼方ノ  
神社ト見エ神功紀ノ歌モ鳥智箇多能  
阿羅ノ摩鹿鹿鹿羅云トナル即其地ニテ

○とちこちハ一の抄イコトナシハ色表タテ  
青リヌキ黄之裏モキコ云りぐこハ女房装  
束之衣ノ上着スルモノニテ氷干ノ上ヤリル  
物ナリ云  
○とちこちハ一の抄イコトナシハ色表タテ  
一勝シテ小父ナラ又他人ニテモ老父今貴  
テ云リ書紀塩老翁マダ方兼十七佐  
夜麻太乃宇治マタ山田守宇治ナドセ  
云ハ情ニシテ老人ヲ云フトナリレシ  
○とちこちハ一の抄イコトナシハ色表タテ  
ノ意ナリ丘ノ字書紀ニナリノモ訓セガ  
サカモ本ハサナルニカラ係タルニテ是モカハ處  
意ニ  
○とちこちハ一の抄イコトナシハ色表タテ  
中昔ノ書紀ニ表許ナリトモ  
ヲコノモノトモ云是ニコカシト云ト同言ニテ  
意モ同シコトナシハ今ノ世ノ俗言ニテオウラ

シト云意之情ニテアツラハシキフニモ三代  
實錄世ハ左近衛内藏富経長尾兼經  
彼善敷樂令入太夫所謂嗚呼人近之  
矣是ハコカシキ俣ヲスルモヨルル之漢書  
毛後漢書毛鳥辭ノ要ト云因アリテ  
鳥辭人トモアリ文選ノ吳都賦ナドモ  
エリリカレバコノ表許ト云フハモト  
漢籍ヨリ出タルカト思フ人モアルベシト  
然ハアラズ既ニ應神天皇ノ大御歌ニ水  
タル云イマガ心伊夜チ古珥辞互古事記  
ニ表許トカケリモトヨリノ古言ニ然ル後  
漢籍ニモ嗚呼ノ鳥辭ト云フノルニ因テ  
カノ三代實錄ノ文ナドハ混ヒルモノト  
コリ聞ユレ古言ノコトハカノ嗚呼鳥辭  
ナドハ本ヨリ別事ニ申昔ノコトモ  
古言ノコトナレバ嗚呼鳥辭ナドノ  
ウチヲ書凡ハ此也

○とちこちハ一の抄イコトナシハ色表タテ  
青リヌキ黄之裏モキコ云りぐこハ女房装  
束之衣ノ上着スルモノニテ氷干ノ上ヤリル  
物ナリ云  
○とちこちハ一の抄イコトナシハ色表タテ  
一勝シテ小父ナラ又他人ニテモ老父今貴  
テ云リ書紀塩老翁マダ方兼十七佐  
夜麻太乃宇治マタ山田守宇治ナドセ  
云ハ情ニシテ老人ヲ云フトナリレシ  
○とちこちハ一の抄イコトナシハ色表タテ  
ノ意ナリ丘ノ字書紀ニナリノモ訓セガ  
サカモ本ハサナルニカラ係タルニテ是モカハ處  
意ニ  
○とちこちハ一の抄イコトナシハ色表タテ  
中昔ノ書紀ニ表許ナリトモ  
ヲコノモノトモ云是ニコカシト云ト同言ニテ  
意モ同シコトナシハ今ノ世ノ俗言ニテオウラ



名高カリル處ナリケレバ哥モ多クヨメリシ  
 ○然レテ辨語ニ及ルルものありしは  
 一ツのりしをもちこち人のえやいとぬ  
 トアル後世ヲ右ノチカケ人ノ歌ヲ引テチ  
 カケ人ト云ニカタイウナリトテ改メタル字治  
 地名ナリイラサトラ又誤リノ新古今集モと  
 ちこち人ナリテ載ラレテ本モ昔シヤリ  
 ○女子と云レドゥル 女子トハ漢文ニカテ哥  
 物語ナドヲ書ク土佐日記始ノことと  
 すしこ日記と云レドゥルのと女もあて  
 てト云ル心ハエサテ其哥物語ハ草ノモシヤ  
 ニモ假字カテモ書故ニ草ノモタツトモナリ  
 ロナラズト云ルハ可物語ナドハマツカサ  
 書ヨム不トスル故ニ

○可賞モ可笑モモシカシキ書紀  
 叙紀ニ引タレ公望ノ私記ニ可賞モ慥カニ  
 知如志ト書リ世外精略日記曾祚好忠集等  
 オモシロキ意ヲ固ニイヒカケテヨカシトヨル  
 哥トモアバイカシトモシフベキ取アラサルナ  
 ヲ鈴屋翁ハ可賞ハカシ可笑ハカシトワケ  
 ラレルヨリ其ヲシヘ子氏師傳ヲタニテ古  
 書ニ背ケルツツカキワザノ柳本居大人ノ識  
 ナルハ云モ更ナレド元来其質偏固ノ僻アリ  
 シナリケレバ其心ヨリ思ルニ可賞ト可笑  
 トハウラウノ語ナルニ假字ノ同シカルベキ  
 理リナシトカケクナ思トラレタレサマナレドカ  
 モシロクテ笑ルモ可笑テ笑ルモ類ノマ  
 ルニテ方ニテハ共ニ同シク之レバ詞モ同シ  
 一ノこ若反對セルヲ以テ言ヲ分ケタト  
 セバ心ヒト祝ヒト愛賞シモテ悲哀ト  
 懼怖ト恥畏トノ類イト多カルナリ一カ  
 モセン是ラニナラウラウナド其心ニシ

モ通ハシテナリヲムカシノ者リハ心ニカ  
 ハ古言ニテ書紀ニ興趣ノ字徳ノ字修徳  
 ノ字ナドヲ訓セタリ續紀宣命ナドハ  
 ウムカシトモ工萬葉ニハ判者キテカシ  
 トモアリ

ニタレ  
 一ツレバ假字モ言モ同  
 シキニ猶アハレト云語ノオモシロキカニ悲  
 シキ方ニ相通ハシテ常ニ多ク云モ其歎息  
 セレ方ノ同シカル故ニカリ耳近クケテ  
 取ララウナル語ノ多カルモノヲ彼チカシ  
 ノミヲワカケ下セルハ何事ゾヤ



○ワくく〜この各別ノ大事ナル物ヲ云  
事ノトコロモノニスルト云ガ如シ

○ワくく〜<sup>ワク</sup>理リナクノ略ニテユトク知  
ラヌ涙ナド云ル同語ナルベシ。無理強テ  
俗語ノアツリ。此上モナリ。コマツタイジ  
コトノ外。セニガナイ此ヲ通ハズリ前後  
ヲミテホフベシ

○ワくく〜何トモクテ不足ナキ人ノ  
亥ハトミヅカラホコラハシキ貞ヨ云

○ワくく〜續博物志云瘡鬼小也不能  
病巨人故曰壯子不病瘡トアリ古ハワラ  
ハミヤミテ壯年ノ人ハ病スト見エ和蘇  
云説文云瘡音瘡俗云衣夜美

○ワくく〜<sup>ワク</sup>親王ノ系圖トナリ五世迄  
ヲ云北史和国列傳名太子為和歌弥多  
弗利アリ今テ本ノ利歌弥多弗利トアルハ  
和ノ字ヲ誤リタル古本ハ和歌弥多弗利

ワくく〜<sup>ワク</sup>俗言ニ  
精ヲ出メツネニヒケトモト云意

ワくく〜<sup>ワク</sup>のハ加クちかくも白氏文集  
ニ秦中吟十首アリ此詩ハ重賦ト題セル詩  
幼者形不敬老者躄無憚ト云句ヲ思ヒ  
出ヒテ誦シ五心之其次ノ句ニ入鼻中辛ト  
云句ノアレバ末摘ノ白ノ思ヒ出サレテ笑フ

ワくく〜<sup>ワク</sup>字鏡ニ悸動也又惶也和奈久  
又惜也和奈久又和奈久又和奈久トアリ  
非物語文ニモ常ニ云ルナリ和ナト  
ハ殊ニ親シク通フ音ニテ乎乃ノ久モ同意  
俗言一身ノ震動フ貌ヲワクトモヲ  
ワクトモ是モ同シ遊仙窟類声戦ワナ  
ク声毛手足モフルフヲ云玉葛ノ卷哥云

ワくく〜<sup>ワク</sup>是ハガツクノ意  
ニテフルハ声ノカロキノワクノリハルベシ  
枕草子ワクノリノワクノリト云セ



アリワカニエトホリ之其系圖トホリノ人ト云  
トトホリト云ハ筋ト云ハゴトト云

○ワづり小事ノカクニ始テ其取及ビ凡意  
之縁ノ字注ニ入色之浅也トモ始也凡南  
也トモニエ又僅ノ字注ニ縁能也トモアル能  
叶ヘリ世意ヨリ持リテ女許ノフヲモツカ  
ト云

○ワリ言ノ本ハ物ノイマタ成固マラヌ意  
之書紀ニ初ノ字ヲモヨミ中昔ノ書ナドス  
ノ初稚ナリ云ル多シ方兼ニテ月ヲ若月  
氏書リサテ夫ヨリ持リテ和カナルヲモ云人ノ  
齡又水ナトリ云モホク成固又意ニ紀始  
ニ固稚トモアリ又物ノ盛ニウレハシキ方ニテ  
モアリ美稱ニ若某ト云類ニコハ物ノナリ  
固マラヌトハイタク異ナル如クモ凡本ハツ  
其意ニ固ラヌ方ニ云ハ賤ムルニ和ラカナル方  
ニ云ハ美ルニ

○ワシシモアノ家ヲヨシトシテ利運ニ理ヨ  
キヲ云

○ワギイモこのワガイモコノガイノ絢ギノワカイヘ  
ワギト云同格ノ語ニ

○ワまほめミツカラノフヲ面ナリヨサニ  
云ナスヲ云俗言ノ自讃是ニ

○ワツツツワツハ海ハ助字見ハモチノツ、  
マリタニテ海津持テラ意ニ海ヲ持神云  
又只海ノクニ云ハ神ノ名ヨリ傳ルニ故イト上  
代ハ神ノ名ノ外ニワツツニテラ言ハエヌ海  
ヲシカ云ハ大津ヲスカナドノ御代ハコロリカ  
始リテム又ワツツウニト云ハイヨノ後ヒガ  
コトニ延喜式ナド迄モ只ワツツトノミアリ  
タヲ濁ルモヒガコトニ綿ノ字ヲ借又假名  
モミナ清音ヲ書リツモ清ニテヨムニ假字  
ニ清音ヲ用ヒ又例モ清ガ多キ方兼ニ海若  
海童海神ナド書テワツツト訓ハ皆海神ヲ云

ワシシモアノ家ヲヨシトシテ利運ニ理ヨ  
キヲ云

○ワづらハ物ニサハリ滞ル意ナリ病ニ云モ  
病ニサハラ清シシカラヌ意ニ又事ノ重リ  
ゲリムツカシクテシワブルヲモ云

○ワシシモアノ家ヲヨシトシテ利運ニ理ヨ  
キヲ云

日本ニテ出来タル琴也元ハ六張ナ  
ヲチ鳴シヨリ和琴ト云モノヲ作り出タリ  
テ六張ナラズテ弾ケルヨリオコルト云ハ長  
明無名抄ニエタリ或書云令琴之神天牛  
首命張天真弓六張調之鼓之神者是  
飯井宮之主琴社神也中原康富記云大  
炊御門殿被仰云和琴天照大神岩戸  
出給佳時神樂器也弓六張ヲ並テ彈之  
依之有六絃云和琴ハ方兼卷五ニ相木  
モテ作レルト見エタルニ名高キ宇田法師  
以檜造之ト阿海抄ニアルヲ又或書ハ松ナ  
ルヨシ云リ書紀枯野ノ琴ハ足柄山ノ松ナ  
ルト相模風土記ニ明ラカナレバ古ヘ和琴ハ  
相テモ松ニテモ檜ニテモ造リシトシテタリ

○ワシシモアノ家ヲヨシトシテ利運ニ理ヨ  
キヲ云

色青クマシハ黄ハタルモ有テ原ノ如クニ  
ミル物之海ノ原ノ中ニマヅリテ原サマシ







○ワウー 若ラサナキモノ、上モ云若菜ノ巻

少納言リ計ニめんとのぬふ、えいとワウー

又才藝ノ事熟ナルヲモ云若菜ノ巻内ニハ  
おいしワウーとぞいみげ

○ワウー 花男踏哥ノ夜綿ヲ花ヲ作テ

カサス之竹川ノ巻白ハも照くみくる

○ワウー 俗語ヲヤクハ邊ト同シ又船モテ

ワタス川モ云神功紀路津拾遺内ニ

此ノ邊のワウーナリハウウノ不ヨ

○ワウー 川ニモ川凡云三邊川云之ナ王經

七ノ渡奈河模柱ノ巻ありしもてくハ  
ニ社もワウー川ノめせとぞちう

○ワウー 敬語ニ非スダズ人ノ上モ云通ルニ

モ向ヘ行イモ又コナタへ来ルイヲモ云又添

比喩テ云ルイロオボシキ仁賢紀ノ分注其

其意ヲ得タル註ニテ

○ワウー 身ヲクニスレノ心之印文字ヲ  
ソテ解スレヤドリ水ノ巻ノワウー

よしと思ふ女子とぞいみげ

○ワウー 亦テモノ意ナリ雨合ノ巻ワウー

ニカ、ツテ来テモノ意ナリ雨合ノ巻ワウー

○ワウー 敬語ニ非ス

ワウー 敬語ニ非ス人ノ上モ云通ルニ

モ向ヘ行イモ又コナタへ来ルイヲモ云又添

ノ心ニテアナガキニシラフヤハハタツン

ヒクダケテシノヒアエズシテ云ヒ出ルハタツハ

テ云詞ヅクル意之桐壺ノ巻ウハめまほ

トシトシ我ちのひつりつと

○ワウー 病ヲ煩フヲ云桐壺ノ巻ウハめまほ

心地ノワウーハイヤナハイヤナトムツシイ  
心ツカトナキ氣アツカヒ氣ガオカレルハテイヤ  
ナレ意

○ワウー 病ヲ煩フヲ云桐壺ノ巻ウハめまほ

心地ノワウーハイヤナハイヤナトムツシイ  
心ツカトナキ氣アツカヒ氣ガオカレルハテイヤ  
ナレ意

○ワウー 病ヲ煩フヲ云桐壺ノ巻ウハめまほ

心地ノワウーハイヤナハイヤナトムツシイ  
心ツカトナキ氣アツカヒ氣ガオカレルハテイヤ  
ナレ意

○ワウー 病ヲ煩フヲ云桐壺ノ巻ウハめまほ

心地ノワウーハイヤナハイヤナトムツシイ  
心ツカトナキ氣アツカヒ氣ガオカレルハテイヤ  
ナレ意

○ワウー 圓座和名和良座 和名和良座

○ワウー 圓座和名和良座 和名和良座

○ワウー 圓座和名和良座 和名和良座

○ワウー 圓座和名和良座 和名和良座

○ワウー 圓座和名和良座 和名和良座

○ワウー 圓座和名和良座 和名和良座



















○ういすゝ垣間見之書紀視其私屏ト喜  
リノ半見ル云竊伺ト訓リ必垣ノ間ナラズ  
凡物ヒモヨリ竊ミルヲ云古注云兼垣間見  
トアラト萬葉ニアルトナレ垣間見ノ字真名  
伊勢物語ニ出タリ

○かぎりありの貴人ヨ云又貴人ヲ限リル  
身氏云リ妻ヲカギリヤルノ條下ニ記セリ

○かゝらひのラヒノ反リナレバカキリヲ延允語ニ  
カキル俗ノラヒニサレド雅言ニサレトモ云リ

○かよひのキハヨウキヲカヤスキカヨレルナド  
カニ同クカノ字意ナシ

○かよひのキハヨウキヲカヤスキカヨレルナド  
キヲカヤスキト云ニ同シ

○かゝらひのキハヨウキヲカヤスキカヨレルナド  
トリ取ナリヨカラヌ是一ツ責テト取レ云

意ニ

○かかけし心ニカルハハカ心ト同ク心ニカケテ  
思ヒハハカケテ云フニ將ノイサカモト誤  
シハ穩ニ南ニアル 俗言ノチツトモト云ニ同シ  
ノ氣ニカル目ニカルナドイサカナルト云ルニ  
同じ

○かゝらひのキハヨウキヲカヤスキカヨレルナド  
大キニ要ニカケズルケナキト云フ一高貴ノ  
人ヲアシラフニカケズルケルキヲカケルモ故  
俗ノ勿タイナシ恐シ多キヲタレリスベテ高貴  
ノ人ニ下賤ノ相對スル一故云ニコロナルガウ  
シク有ガタキト聞ズルモアレド口有ガタキト  
云トハカハレリ

○海竜王沙羯羅花語フニ海ト翻ス  
サバ海竜王ハ沙羯羅王ニ  
○かゝらひのキハヨウキヲカヤスキカヨレルナド  
叙對ニ

まゝしき降りしそノ類又スベテ一ハイコノ  
スノ意ハ古クテノ名ノ降ハツク意ナケ  
枕草子ニ牛の如き引出シぬノ類又  
同語トシテノ意古クアリヤリヤリト云  
計ニ是ラ通ハシテサレル

○かぎりありの貴人ヨ云又貴人ヲ限リル  
リヤト云リ上ノ限リヤルト云高貴ノ人ハ取マ  
ナド上ノ限リ云下ハカギリヤルハ高貴ノ人ハ取マ  
クカケルハ異ナルヨ云ト按ズル貴賤ノ  
ツキテ終ズベキヲ云カギリト云語本ノ意  
一ナレハ耳聞ハマギラシク心得カケルニ際  
限リル意ニ俗言限リヨギリト云ル如シイッ  
追モドヤウモト思ヒキリノアルト云云  
ニハトレバド、云カギリガアルキマカガレキガ  
アルト云スニハ差別カアルワカチカアル誤  
又義誤ニ格式格合トモ誤ス身ノ上ノ降リト云

右内一茶ニ茶ハ心得ヤスシニ茶ハ貴人ヲ限リナ  
キ人トモ限リル身ハモ云ヨリイサカ心得ニ  
クヤウナレドワカチニ差別又格式ニ際ナド  
誤スレババトリタルト云マサリタルト云通  
ハニズキ詞ナルト明ケシレハカギリナレト  
云ル語モ悦フイニモカナルト云モ通メ云ル  
カ如シ親子モ男如ニモ云レバ貴賤ニツキテ  
ノニ叙スベキアラズ

○かゝらひのキハヨウキヲカヤスキカヨレルナド  
也和名之留加由トアリサテ加由ニ志留留  
加多加由權江次第ニ堅弱ト見之和名  
鐘ト彌ヲワカチタルハ事ヲワケ云時ク  
常ニス加由ト云テ足レリ古ハ飯ト云モ  
強飯ノ如ク籠ニ蒸シタルモ之又今飯ト  
云ハ籠ヲ飯ノ如ク煮タル物ヲ古ハ籠ト  
全ク同シキ物ニハアラズ今ノ飯ノ制ハ籠  
ナレハ形狀ノ飯ニ加多加由ト云ス飯







○かいづレノ御時ナドノカモシ御國語ハ詭何

詭何ナド云類ノ言ノ結メヤト云一ナシ中昔

迄モ此格ノ多分ル一ナカリシヲ近キヤ人ハ是

ヲエヒラズ哥モ文モヤト書一ノ多キハ漢文○

讀耳ナレバヒカ言又疑ヒノ加アリ歎カア

リ加ノ加マリ願我アリ又二言ノ即教略○

ヨテ古今集端詞ニ七印ノ如ハノ日ト云リサ

レド哥ハ言ノ限リアレバ日ヲ省ケリ今ノ人

カラ日ニツルト思フハヒガフトニマフゴラス

○加のト云キヲエノト云ルハ古ノツ格ナ

昔ノ源語ナドモ必カカト云キヲ此ト云

一甚多シ

○かぢよよこえつて面カケ見エツ

○かひ間之山ノ間ヲ峽ト云知名抄云峽ノ山

間ニ峽處セ俗云山乃加比トアリ間ハト合

ノ意ニカナトコナト合ラ取ラ云ルヨリ出

タリ甲斐國モ山ノ間ノ間ト云一ノカヒトアヒ

ト通フ例ハ花ノチリカフモ又心ヲカハスモアハ

ス

古天皇ノ御代ヨリ始ル新羅佛俱毘藍城ニテ

誕生ハ天龍下テ水ヲシキ新羅佛ヲヒセシ

一ヲ摸シタル法唐○

○かよガネテツツマリタルニテ坊ガ不后ガネ

ムコガネナト同言ニ言ノ意ハカ不テ設

クハ申之クマシクマシクナトモ兵ナシガ

兩リツリテワタリ川ノ水ノマシテワタリカダシ

トテカヘリクハタタノカネテノ設ケニ血泊

兩トフラニイテ願フニガ不ハ難言加リ用ニ

ヨリツツケルカハリ

○かんな假字ニモトナリナシバ其リヨ音

便ニシト云テカニトハ云之ソレニ習ヒテ真

字ヲマシト云一其コトワリナシマシトハ

云ハカラス

○かづく香ナドヲ南ト云一ノ元唐言ニテ皇

ノ古言ニアラズカグト云ツ雅言ナリ古今集

花梅の香をさぎバトアリ梅ノ枝ノ卷毛

ゆき梅ノ枝ノかぢよ合セあまふるノナドモ

アリキリト云一ハ昔ノ書ニ見エタルナシ

ト通フ例ハ花ノチリカフモ又心ヲカハスモアハ

ス

○かぢよよこえつて面カケ見エツ

○かひ間之山ノ間ヲ峽ト云知名抄云峽ノ山

間ニ峽處セ俗云山乃加比トアリ間ハト合

ノ意ニカナトコナト合ラ取ラ云ルヨリ出

タリ甲斐國モ山ノ間ノ間ト云一ノカヒトアヒ

ト通フ例ハ花ノチリカフモ又心ヲカハスモアハ

ス

○かぢよよこえつて面カケ見エツ

○かひ間之山ノ間ヲ峽ト云知名抄云峽ノ山

間ニ峽處セ俗云山乃加比トアリ間ハト合

ノ意ニカナトコナト合ラ取ラ云ルヨリ出

タリ甲斐國モ山ノ間ノ間ト云一ノカヒトアヒ

ト通フ例ハ花ノチリカフモ又心ヲカハスモアハ

ス

○かぢよよこえつて面カケ見エツ

○かひ間之山ノ間ヲ峽ト云知名抄云峽ノ山

間ニ峽處セ俗云山乃加比トアリ間ハト合

古天皇ノ御代ヨリ始ル新羅佛俱毘藍城ニテ

誕生ハ天龍下テ水ヲシキ新羅佛ヲヒセシ

一ヲ摸シタル法唐○

○かよガネテツツマリタルニテ坊ガ不后ガネ

ムコガネナト同言ニ言ノ意ハカ不テ設

クハ申之クマシクマシクナトモ兵ナシガ

兩リツリテワタリ川ノ水ノマシテワタリカダシ

トテカヘリクハタタノカネテノ設ケニ血泊

兩トフラニイテ願フニガ不ハ難言加リ用ニ

ヨリツツケルカハリ

○かんな假字ニモトナリナシバ其リヨ音

便ニシト云テカニトハ云之ソレニ習ヒテ真

字ヲマシト云一其コトワリナシマシトハ

云ハカラス

○かづく香ナドヲ南ト云一ノ元唐言ニテ皇

ノ古言ニアラズカグト云ツ雅言ナリ古今集

花梅の香をさぎバトアリ梅ノ枝ノ卷毛

ゆき梅ノ枝ノかぢよ合セあまふるノナドモ

アリキリト云一ハ昔ノ書ニ見エタルナシ



云是之其片音振モ拍子モナカハルトニ  
タリ大比礼返シト云モ返シ哥ト大ヒレテ詠  
フ之サテ呂律物ノ調哥音ナドヲ呂律ト別  
ツト漢國ノ定メ依レリトニ但し皇國ニテイカ  
社カラ國ト相及メ呂ト云ハカノ國ノ律  
律ト云ハカノ國ノ呂ト云ハカノ國ノ律  
此返哥ヲ其調ベノカハルイニ説ハハイカト思  
人アルケレド呂律ナド云稱フ後ナレ上代ヨリ  
シテ哥音モ物ノ調ベナドモ自強キ系ナレ  
ケテナドハアルケレバ其ヲヒルガヘシテ詠フイ  
ナドモアリテ返シ哥ト名付ケテ何カハ疑ハ  
ム然レワザノ上代ヨリ有テ傳ハリタルヲ表  
テ後モサルワザハアルニ

○かづつらひカヅリヲ延云ヒツツリヲヒ  
ツラヒト云ヒトシツリハ連ノ意ニカ、リツ  
ラナル義之俗言ノカ、リ合ト云カ如シ古  
事記ニワガタセシハ比許豆良比云ヒコレニ  
同引ヨスル意ニ云ヒツツラヒハ云ヒツツリヲ延也

言連

○かり 妹ガリ君ガリルテ許レトトハ誰モ  
知リタルナレドナホ心得アリ許ト云意ニ  
ノミツカヒテ許ヨリル云意ニハツカヒタル例  
ナシ其サシテ至ルヲ云語ニテ出立方ハ  
云ヒガタシ方兼ニワカリ来ントアルモノワカ  
許ヘコシワガ許ヨリ行ヲワカリ行トハ云ヒ  
カタシ妹ガリ行ハ妹ガ許ヘ云ク妹ガモトヨリ  
来ルヲ妹ガリ来ントハ云ヒガタシ

○かんと 人ト家トノ中ヲタテハナルヨ云今親  
子ノ間ニ多ク云リ文徳實錄本朝之俗  
為君父損付曰勸當トアリ勸ハ物ヲ云  
ガハサグヲ云當ハ其罪ニ應メ其刑ヲ云ル  
ヨリ云勸事トモカウガト云云  
○かづい 勸事之勸當同し勸當ノ  
字續紀卷ノ八ニ見エタリ  
○かづらん 勾欄本字ニサヒ書紀高欄ナリ

マヲ思ヒト云リト云ハ意タガハリスハ片ツ  
ニテ少ミト云ニ意ナリ 俗言ヲナカナラヌ  
マリノ意之新ハ帖行家秋ハキぬら  
ノリ有の語をめてるが音の目ぞ  
ヤルル、又あひしき民のちまひ、  
しつ火、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、  
○かづい 俗言ニ深切ト云フ元ハ物ノ  
多キヲ云古哥ニワカ意ハおもつコト  
云ナド意ノ数多キヨシヲツネヨシ又思ヒ  
ノシゲキ由ヨ云多キシゲキハ意ハ深ク  
切ルヲ云是ニテ数ノ語サトルベシ

○かづい 俗言ニ深切ト云フ元ハ物ノ  
多キヲ云古哥ニワカ意ハおもつコト  
云ナド意ノ数多キヨシヲツネヨシ又思ヒ  
ノシゲキ由ヨ云多キシゲキハ意ハ深ク  
切ルヲ云是ニテ数ノ語サトルベシ  
○かづい 俗言ニ深切ト云フ元ハ物ノ  
多キヲ云古哥ニワカ意ハおもつコト  
云ナド意ノ数多キヨシヲツネヨシ又思ヒ  
ノシゲキ由ヨ云多キシゲキハ意ハ深ク  
切ルヲ云是ニテ数ノ語サトルベシ

ニシテカツトコナル且少シモ用ナシ且カタツ  
ニサテ且ハ是ト彼ト物ト云ハ片ハ云詞ニカタ  
カクツハナド云詞トヒトシマアト誤スベキ也  
アリ又カツト通フ取モアリおもひぢりつち  
ナドハカタツハチラスカタツハナルニテ少シチ  
ルヲ云  
○かづい 祝詞ニ云ル語ニテ  
神祇ニ多ク用マクハムノ物ニカケムモト云  
知シイマシキロニカケテ申モ恐レナレドモト云  
語ニ

○かづい 祝詞ニ云ル語ニテ  
神祇ニ多ク用マクハムノ物ニカケムモト云  
知シイマシキロニカケテ申モ恐レナレドモト云  
語ニ  
○かづい 祝詞ニ云ル語ニテ  
神祇ニ多ク用マクハムノ物ニカケムモト云  
知シイマシキロニカケテ申モ恐レナレドモト云  
語ニ  
○かづい 祝詞ニ云ル語ニテ  
神祇ニ多ク用マクハムノ物ニカケムモト云  
知シイマシキロニカケテ申モ恐レナレドモト云  
語ニ















この道のまじりあはれり心不  
そく云々

○かぐくキアノ細カレガハカキアケク細  
言

○ウヤリ 吐人意とヒトトカヤクモノハ  
對ヒ居ガタキサマヲ云

○かよ通 往來スルヲ云舟モ男女ノ中モ  
文ノ一モ万ニワタリテ云又ワキ道モ心ノ

行届クヲ云御法卷女の内おきては  
いりあういぬの道ふさへりあひりひ

りくゆのあをとこハ通達ノ通之又似  
ルヲモ云早蕨巻くちりすきてハやそ

きりしあゆもぞかひぬるを  
○かよ又偏カケツ方ノ意ハ半からハ

半カタ大半ナド云カ如し  
○かよ明ラカニ送カニ和ラカニナドカニケル

○云古言ノ格リナリ古言ハ明ラケルケレドケク  
ト云リ

云モリ大和物語なりゆくもこのしん  
くぬきの中と神よあしこのゆく身を  
めて又引ララル心ノカレモヤリ夕白

卷又との原よゆる命よ

○ウの鴨子之西宮記獻鴨子鴨ハカモヲ  
雁ニアラズドカリノ子ト云ヒナリ實カレ

能ノク雁ノ此兒ウシハ難波高津ノ  
御代ニ聞入し後ハ物モヒエズカレ鳥ハ夏鴨

トモ云テ世ニ常位ニテヒナマリ後ノ物語書  
ニカリノト云ルモ是

○かよ佐那縣年魚市縣松浦縣是ラノガタ  
ハナアガタ之後世ハミナ浮ト心得タルヤ

ギレタルコト  
○かよ白柄ノアル由ニ柄紐ニ韓白  
ノ意ハアラズ上代ヨリアリシモノ

○かよのあゆい 和名云純ニ希ニ流ニ欲テ也  
衣ノヤレベクヨレルヲ云カヤニ乱ノ字ヲヨヒ訓

セタルモ此意

○かきアリ 冠之和名秋冠黃帝造也并色立取云横頭和利皇國上代ハ冠ハ無リ  
ト云説アリ漢籍モ北史ニ皇國ノイク記ノ類示無冠但垂髮兩耳上至隋其始

制冠ニト云リ姑ク是ニ依テ思フニ證アルナム先ツ上代ノ首ノ飾リヲ老ルニ鬢  
王又蔓ナトハ固ヨリテウラズ受ト云モアリ倭建命ノ御歌ニ毛見エタリ書紀ニ鬢

ト書テ鬢ニ草ホノ枝又ハ後ニハ金銀ナド以テ作りテも刺タルモノモ冠アラバサリ  
物ヲ鬢ニ刺ベキ由ナリ是ヲ冠ニ刺スハ後ノ一ノ本ハタニ鬢ニ刺タリシテ彼字

モテモ知ラル又記中ニモ書紀ニモ上古冠ノ一ヲ云ルハ更ニテ景行紀雄略紀ナドニ  
衣冠ト云テアレハ口文章ノ一ニ實ハ冠ノコヲ云ルヲラスカレバ推古ノ御卷

始行冠位トアルヤ實ニ冠ノ始ノナリケム首服ナカリト云クハ吾皇國ノ初ニ  
人思フベケドソハ例ノミダリニ他國ヲ羨ム心ノ無キモ有モ風俗ナレバ何レヨシ

トカ定ムモモシ必布ベキモノト云リ他國ニモ女ハ服又ハイカニヤツレモ服又ナラシ  
バコソサテアレハ必服マシキ故アラムヤハナホイワ御國ハ右ノ如ク鬢華アリ蔓アリ

テエヨサハ飾リシカバ冠ナシトテ首服ハ何ノヤカスヲカアラム然有レドモ伊弉那位ノ  
神ノ御冠ノ一ヲ古事記ニ云ルハ無ト云マゲツラヒハ表ニハ立カタクナム上代冠リ

アリトセバ推古紀始テ行フトアルハ其階級ヲ始テ定ムフニ出雲國ニ記神門郡  
冠山ト云テ記ノ大神ノ御冠トアリ世大神ハ穴牟遲命ヲ申之是ラ古

傳トシ之後世ノ書ニ應神天皇ノ御冠ノ傳ハリテ有シトナルハ證トスカリト







枕詞ノ字ヲヤカテ其地名ニ用タルモノ飛鳥  
ノ明日香ト云カラ明日香ヲヤカテ飛鳥ト書  
ト同例ニ

○カクも、頭衝カクト云意ノ言テ頭ヲ衝入  
逆サマ水ノ中ニ沈ムテ故ニ水鳥ノ水ノ中ニ  
没マモ海人ノ魚捕ニ海没モモリ然レ後  
ノ世ニハ海人ノシツザノイラニモハヒガ  
コトニ

○カクノカ神ノ氣ニ乳ヲケト訓世ノ人  
字音トノ心得ノレドモ然ラズモトヨリ皇國  
ノ言ナルガタマノ字音ト同キ一可兼ニ氣  
ナド云言モアリ類今モ是ニ數萬ノ言ノ  
中ニハオノツカラ漢字音ト似タルモ同キモ  
ナドカ無ラムサルヲ似タル同キガレバ皆字  
音ヨリ出タリト思フハイカシヤ宗花物語  
玉群菊ノ卷光義吾平あどりて  
物四七のふり物の氣ヤリこころ林の氣

ヤノの呪也をどしと留カクボヤセバサテ神氣  
物ノ氣ト云ル神ノ氣ハ神ノ宗リノ物ノ氣ト  
ハ死人又生人ニシテ宗リヲナスヲ云テ中昔ノ  
書ニ常多クシテサテ此ニトモ古言ニテ古ハ  
物ノ氣ト云モ神ノ氣ト同シトケム神ヲ  
物ト云レシトアママアリ然レテ後世此ヲ分テ  
神ノ宗リハ神ノ氣人ノ宗リハ物ノ氣トナル  
ニサレド人ニシテ宗リヲナスハ神ト云ヒモテ  
テケバ同ジト

○カク、如是ト云ル然トテ細カククバ差ヒアリ  
カクハ我ニキタルト又サレ當リタルトテ指テ  
云レト其トノ差ヒリ如シ文章ガカシテ  
テ云モ此差アリサレド又如是ト然トテ通  
ハシテ云ルトモアリ

○カク、カカニタリケリト云ラタリノ細  
ノカクテニ情ニケリノ細ハカシハ云イヘリ  
○カク、鶏ノ名ニ家鶏ト文字ノ音ニ

○カク、カカニタリケリト云ラタリノ細  
ノカクテニ情ニケリノ細ハカシハ云イヘリ

○カク、鶏ノ名ニ家鶏ト文字ノ音ニ

○カク、カカニタリケリト云ラタリノ細  
ノカクテニ情ニケリノ細ハカシハ云イヘリ

カラ梳カラ白連カクナトノカラハ機カク核カラ  
ニテアヤツリヲ云カラ錦カラ藍ナドノカス  
カラ因ヨリ液リコシ故ノ名ニ  
カチアカツテテフ言ニシカレバカチヨリニ  
ト云スレテハ理リタラス  
カチのハ餉ノ多ニホシイヒヨ云唯飯ノ  
ト古今集ニモ見の浦ト云ハハ  
トヨクイゆありのかきひひたあべ  
けふトアリ 勢語ニ其派のまのあけ  
あかりあけり色のひを食ひりナドアリ

○カキ、カキニタリケリト云ラタリノ細  
ノカクテニ情ニケリノ細ハカシハ云イヘリ

○カキ、鶏ノ名ニ家鶏ト文字ノ音ニ











飲着之貞觀儀式大嘗會儀中ニ各執酒拍所謂酒拍者以弓弦兼授与木  
四重別四枚在左右ツタキノ日ノ儀ニ云々造酒司別賜拍即受酒而飲訖以拍為  
緩而和舞ト見テ大嘗祭式ニモ云々抑酒ヲ拍ニ受テ飲フハイリト上代ハワザシカ  
定ル礼トナリテ豊ク明リナドハ必其ノアリシカニ於テ云々酒飲等伊布言  
此保室我之役催馬樂美濃山ノ哥美濃セカル之ガ於此多流太力加之皮止  
与乃安可利尔安不加多乃之左也安不加多乃之右也コレキノカシハ三用ヒラルシ云  
リ序ニ云ニ神前ニテ手ヲ拍テ拜ム其手ヲ拍ツテ三拍手ト云ナルハ拍ト字ノ形  
ヨク似タルニ勝天ノイテ思ヒヨセテ思ヒ終後ノ世ヒガノ手ヲ拍ツラカシハデト云一  
古カッテナキ一之然ルヲナホ膳部ト引合セテ云説ナドハイニシキ強説ノ十ノ神拜ス  
ルニ拍手ト云ニ此手ヲ拍ツ數ノ定リタルハヤ後ノ一ナルベシ其數ノ一ノ大嘗祭式ニ拍手  
四度度別ハ遍神語取詔八開手是也見エ大神宮式ニ再拜而段短拍手而段瞻  
退再拜而段短拍手而段一拜大神宮儀式帳而段拜奉互短手二段拍一段拜又  
更四段拜奉互短手二段拍互一段拜奉畢又四段拜奉手四段拍又後四度拜  
奉手四段拍畢又四段拜奉八開手拍互短手一段拍拜奉又更四段拜奉八開手  
拍互短手一段拍即一段拜奉ナトエタリマツ八開手トハ四度度別ハ遍トナルハ  
四度ニテ合テ三ニ拍云云如ク聞エ此也詔謂八開手是之ト云ハ一度ハツツ拍ト云  
ニテ四度合セタルヲ云ハアラズ然レバハ拍ヲ八開手トハ云ニサテ短手トハ八開手ト半

ニテ四拍ヲ云然レハ短手ニ段トアルハ四ツツニ段ニテ即八開手ノ數ナルハ八開手ト云ナル  
ハ四ツツニ段ニ切テ拍故ナルベシ又只手四段トアルハ短手四段ニテ合テ十六之又上ニ引書  
凡ニ只手ヲ拍トアルモ短手一段ニテ四拍ニ拍手一度トアルモ同レ只一ツ拍ニアラズサテ  
大神宮年中行事ニ云ル拜ハ拜八度手兩端トアリ端ハ段ニ是モ一段ニ四ツツニテ而段ハ  
合セテ八ニサテ拜ハ度トアルハ四度拜ニ段ヲ云ルニテ其四度一段ト云ニ手ハ八ツツ拍テ  
合セテ十六之今ノ世モ是ニヨリテ四度拜ニテ手ハ八ツツ拍テ腰退シテ又四度拜手ハ八ツツ拍後  
手ヲ拍ト荒木田ノ經雅云リ後ノ手トハ後ニ拍ヲ云右ノ拜式又儀式帳ニエタルト  
同レ一ニサテ神ヲ拜ムニ手ヲ拍數ノ一後ノ世ハ説クアリテサマナレ上件ノ數ノ正  
レカリケル又江次第ノ抄ニ上卿拍手作法不令有聲手ノサキヲ合セテヤヲ打合ス  
ニトアルハイト後ノ世ノサマニテ數ク本ノ意ヲ失ル一之其ハ音高ク大ニ拍ヲバ祭ヲ  
カラヌ能トシテタビ容貌ヲツクロヘル物ノイカモ音高ク大ニ拍ヲ本ノ意ハ  
アリケレサテカラフニ周礼ニ凡ノ拜ヲ岸允中ニ振動ト云拜アリ任ニ以兩手相擊  
也云又今儒人拜以兩手相擊蓋古遺法ナド云ルイアリ  
○かま竈竈ノ字カマト訓ベシ和名抄ニ四声字死ニ電炊爨處也和名加萬  
アリ今俗ニ釜ヲモカマト云ハ釜ヨリ出タル名ト思フ人アルベレドサテラス古ハ  
釜ヲカマト云フナシ釜ハ鼎又マロガナト和名抄ニ見ニタリ思ヒマダバカク人  
釜ヲカマト云ハ朝鮮言ニト云リサモアルカ又竈ヨリ沸リタル名モアラム又カマド























便に

○かろちん拾遺抄云庚申人腹中有三戸  
為大害常庚申之夜上告天帝記人罪  
過絶人生籍庚申之夜不寐則不得上天  
庚申經

○かのうー 彼岸之大經云入佛法滅竟  
彼妍臣彰早死極昇竟涅槃名爲復存  
佛ノイマス国云

○かやーカレトカレカマシク云サワグヲ云  
宿木卷亦抄云もかやーと云と  
せのーゆひてガヤトモ云同し校書流  
なる人んつもてかやーとあひともむふ  
今モカヤト云り同意ナリ

○かげ 惟より日月灯ナドノ光ヲ云々露卷  
りけのりけるゆひののこる空輝卷大  
子方ニ尾風と云るをてふ海のぬふ  
又鏡水ナド後ルカゲモアリ抄云カヨハス

又影形ノ氣ニ俗語ノカモカゲナド云カキ  
カゲモアリ相産母のりあふハカゲナド云  
ゆぬぬ又物ノ隠レタル形ヲ隠ナドノカ  
ゲモアリ抄云及ハス又頼より形云ルカ  
ゲモアリ桐ボヤノカゲトバノのこ  
ヤノ云

○かろやテヲハ哉ヨノ意著聞集云ろこ  
テいなるやとろかろや願フ意故ヨノ意相  
木とろあすねもかろやと打あらきぬ  
ひて

○かこ是帯鉤ヲ銅ノホゾニテ今ノコセノ如  
ク合スルヤラニ作レル也東帯ノ帯ハカゴニテ  
引カクルヤラニシタル也和名抄ニ腰帶具鉤具  
楊氏漢語抄云鉤具世間ニ賀古今安唐  
令取謂王鉤是也腰帶及鉤具以銅屬  
葦也トアリ哥ハかこト又カゴトモリニ  
カケテヨメリ紅采買中ノこえハかこトヤ

りのこりやーのりーにかくかろやう  
つせバミ

○かけ橋 和名抄云板木橋爲道也惟木  
こちありきしんをえしと云ありて又か  
かのふたをこけぬ順徳院ノ御製也す  
り石のあき急とくもいふてちぬ花  
むむ本名のりけし

○かけつりやー 兼官云虎如卷惟光の節  
辰のつりやーあてた京大夫けける信毎  
卷云々の内記或記の補とちんりけ  
くろらや

○かたけ 古事記姿体瘦と云白文孝子  
惟時時スオウシイ見ダテモナイ藤原卷  
いしりもせとろあーと色のあおとが  
深くそ急なるゆへにぞうちあひひ  
るや東屋巻云々めハ世方小ト云め  
りんと守のぬとえてるいこまのめ

あどいしてわーけけるめのつとをえい  
るこコハイマダ成長セヌラ云  
○かこつカゴケルカツケルイヒガサニル又白文  
託字ヲカゴト訓セタリワケルコル意ツビ  
コル中ハイサカ恨ム意ヲ合ルルかこちも  
同じタ貝巻のタ貝のやどりもてい  
あやーとあひあひさあやーと惟光とあや  
り色どい帯木巻とよひむとあをいせ  
ていかわらうりーのこちて

○かこー 神武紀上兩眼有山甚可畏  
萬葉十五つりかこのかここまをやり  
くもぬくぬあきとてコレヨリ傳テ恐多  
しト云用ニ古書ニ畏可畏恐惶懼ナドノ  
字ヲ書テカこト云ハル意也又賢  
コモ智コモハ然ル人ハ畏ルベキ故云りテ  
アマカレト云ハ猶元ヤカレト云ハカレト  
云ハ其カレト云レテ道歎クコトナレハカレト

云ハ其カレト云レテ道歎クコトナレハカレト



おとけややまの花園の草はしらうたふたふた  
總角巻さよふ夜きくあまきくといはれど  
此のこころりハのむぎうししあひしは  
外篇云彼病鈎者誅巨鈎腰帶環也

○のこころカコト同シカコツケフトハ心カツケルカコ  
ツケイヒガサスルルイノ標零巻打のむぎのり  
さしむむかしとてあはん方ふあひや  
せぬ夕色巻ぬのり口とてさうりや  
かてとてすかかこころは一意同し約巻つ  
つきてつあさうさう夢の目さかとうあ  
しとあのかううかかかこころりツツリ  
カ意ニカフト、輕ク轉シルノ俗語ノイヒ  
ばかりチヨットナド云ト同ク南元モアリ夕巻  
さびさうりのむぎとてさうりハむぎハ  
東海の道のもくめりひささうりさうり  
もあはんとぞさうり  
○かむさえあつふあまきくあまきく新

猿樂記早職事之皮笛見文中原最  
秘林云天慶五年正月七日青馬酒盃  
十巡王御有酒氣乳吹皮笛又云天曆之  
頃廣幡中納言九條有丞宴會記云今日  
公卿等入興之餘吹皮笛又云自故今  
出川入道相国被下遣新渡笛於大神式  
賢云此笛未知其名可勘申云此笛中間  
有如針穴者裏張羊皮宛如薄藤人  
雖稱奇笛之由式賢獨成皮笛之疑  
サバ皮笛ナルベシふつうト云皮笛ノ音ノ○  
元来ツツカナル由ノ文ヲフキナス人ノツツ  
カナルヨシハアラスあまきくあまきく  
ル即熟録シタル方ナレバコレヲ以テモ  
フエニハ文ノツツキカラニ叶ハズ  
○かこころ温明殿之内侍取トモ申ス  
禁秘抄云垂仁天皇御宇始為別殿神温  
明殿白川院御宇仰曰内侍取神鏡飛出

又一種アリ古事記八保遠呂智改恐也奉  
下ニ天尾羽張神ノ答恐之は奉ト見エ又事  
代立神ノ語も恐之世国者立奉天神之  
御子ト云テハ心穴穂宮改恐隨大命  
奉進ナトアル同語ニ是ハ速諾ト云テ兼ル  
語ニ今ノ語ニ兼諾スルヲカシマシタト云ト  
全同事ニ又俗言ヨモテ解リキハ常ノ語同  
賢ナレ意リヨラスケル相室ニ世ふさ  
ササササササササササササササササ  
どのこころとてしひさうあつそ  
まのこころ又ヨキリ云同シキモアリ善  
やうくさうさうさうさうさうさうさ  
と云うて又善悪ニ通切花ハ云アリ  
シクろさガ如シ土左日記凡字は阿は色  
バあささささささささささささ朝  
白巻やこころさうさうさうさう物  
見事ニナトアリ竹取かこころの枝

うせりて又カロシキ意ナリ神代紀  
西原有山可畏万葉六あまきくあまきく  
りあまきくあまきくあまきくあまきく  
又ウヤモツシム意ナリモアリ推古紀訶之詩  
源氏花伽倍摩都羅武是ヨリ傳ノ恐多  
キ勿体ナキ意モ用ヘリ常木ノあまきく  
めささささささささささささささ  
ゆめあまきくあまきくあまきくあまきく  
とて  
○かこころ五種ノ義アリ本ノ意ハ恐也  
ヨリ傳シタルニ恐也恐也恐也恐也  
景行紀天皇則惶之同紀悚也伏地仁德  
紀新羅人懼之柏木ハ常院ハさささ  
あまきくあまきくあまきくあまきく  
かこころあまきくあまきくあまきく  
意礼ヲナスサマ之葵卷出流の人さささ  
こころあまきくあまきくあまきく















ニモ書ソノ紙書タリヲ紙画ト云ト宣長云  
障子屏風ナトノ繪對ヘテ只書タリヲ紙  
画ト云ル古注イカト云リ

○かめの上の山蓬菜ヲ云仙境ナリ不老不死  
ノ藥ヲコトサラニ尋不モトムルニオコバト此  
六奉院ヲヤガテ蓬菜ニシタレ

風ヲレゾふ巖を吹あぎのてき文選風賦  
巖石板木ロヲ故ニゲニト云リ心ハサシモツシヤカ  
九紫ノ上ヲ風ノサワキニ垣間見タレガナリ

○かゝのゆ將ハるゝのふふゝ交野ハ將  
物語アリ其交野ハ將ハ紙ノ色ヲヒタレ  
枝ニケケテ今紫ノ薄様ヲ芳萱ニ付ラ  
レタレヲ知ノラ人ノ申ノ帝本ニ詳ニ九テ同  
色ノ木抄ニ付ル丁定レト云

○かんののらん今ノ世ノ假名ハ弘法大師  
始作之以前ノ假名ハ如書紀萬葉等書  
様ニ書紀假名ハ聲書之萬葉以音与訓

義書之

○家礼ハ高祖記ハ六年高祖吾  
朝太公如家人父子礼太公家令説太公曰  
天無二日土無二王今高祖雖子人主也太公雖  
人臣也家礼ハ天子ノ敬ヲ了レ他人ノ  
氏子ニ准メ禮ヲイタシ其人ヲヨリドコロシヒタ  
スラタム人ヲ今モ家礼ト云来レリ

○河江の関伊勢國ノ弁ハ將ノ茅垣ヲ説シ  
ハ我モ催馬樂ノ河口ノ哥ヲ返答ニ説ヒタク  
有レト云河ノ哥ニ手ノ色トモいひてつ色

○かどモ忍クニ逢見シハ有レ由ノ意ナレバ女聞  
苦シト思ヘルナリ

○八人佛のふせ灌佛布施此貞敷寛平  
八年定法文親王大臣銭五百文大納言四

琴ノ音ニ老御タチナドノ表レテ催シテ泣カ  
賦ノ序云凡如ク今チラト云凡木ノ葉ハカ  
吹風ニモサヲハルレバ風ノカイサカナル如ク  
又モホリ泣キ哀ミナルモハハカナリ浅ハカ  
ナル物ノ音モ感メ泣ナレバ物ノ音ノ感ハマ  
カナル如ク今角哀レテ催メ人ノ泣ハ家琴  
和琴ニ感シタルニアラズ折カラ物哀シキヲ  
ナル故ニサシモアラズ物ノ音ニモ感シタルト  
云レテ内大臣ノ自ラ和琴ナレバ早下シ五レ  
語ナリカ本云ヲ面白クナレテ書タリ  
サテ又あや〜物めもさあゆめゆるな  
トノ五レハ自感シ玉ヒテカノ女御ノ御一ノ  
述懐モ催サレ凡意アリテキ立細流引レ  
凡是故苗時〜文ノ意遠バコメ凡ニア  
ラズ只カノ不足聲哀郷言也ト云レテ意ヲ  
トシル〜其次凡文ノ意ハコニアタラヌ〜  
か〜こ〜人者も〜つ〜め〜わ〜り〜世

絶ニ天曆ノ帝安子中宮ウセ玉ヒテ御ナゲキ  
モ浅カラヌ中ニ式部卿宮ノ北ノ方ハ獨ッオケラ  
シト思ノ北ノ方ノ御ハカラノ公遣テ玉ハセテ  
右ノ北ノ方ヲ呼入玉ヒ書夜モロトモニ仗玉ヒテ  
世ノ政モシラセ玉ハ様ナレバ只今ノ識リ卑ニ  
ハ此御一ニ有ケル小野宮ノオトバトヒセ  
世ノタメニ奉ルベキ君ノ御心ノ末世ニヨシ  
ナキ一ノ出来テ人ノ心ヲオヒ玉フヲ思  
ヒナゲキ玉フト云リ

○か〜どの栢葉殿ニ朱雀院ニナリ  
若菜卷源氏朱雀院ヲトフラヒ玉フ段ニルテ  
御幸ニ替ルケテメオナクテ此語ニケチメヲ見  
セタリ御幸ノ儀式ナラバ公卿馬ニ供奉ス  
ベシ是替リメ

○か〜の三層仁明天皇玉御買御擇  
頭臺造沈香山以金為鶴令合御擇頭此



文中納言三百文參議或百文四位百五十文五

准據ナレシ

位百文六位并童五十文性古如中頃ヨリ紙換  
元是ヲフナヅミト名付ク親王大臣紙五帖奉  
納言四帖四位五位二帖六位童一帖云

○りづらおもてしもの宣長云南工又或  
人ノ云ハるるをのこヲ字シ誤レルナルベシトモ  
アルベシ

○つぎくーしる糸今モツカヘトテ瓜ノウラ  
ニテハヌレテアル其タケヒナルベシ

○かしのこども守り子供之常陸ノヤサシテ云  
サテ常陸上野上總ノ守ハ親王ノ外必不陸  
サド守ノナキハ女吏務以下ヲ司ル故ヌヲ  
アガノテ守トモ云レ

○河のしるしはさし宇治橋ノ孝徳天皇大化元年  
守ノタテラレシ宇治橋ノ孝徳天皇大化元年  
丙午歲造之云

○かドおとめめめめハナトシメ云詞之何妻  
モナリ調ハズ片ナリナルヲ云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

○かき返スアハルヲ云

○かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

歴和名 世国ニ名付ル心ハ髪櫛ニテカミマ音使ニ  
加メ四段

唐書礼樂志曰初隋有法曲其声清新而  
近雅玄宗酷愛法曲選聖部伎弟子三百

選云勅取理髮李善曰通俗文取以理髮秋名云  
毒音毒也取以毒標髮也或曰標髮音標

紀曰七月丹壽王妃薨氏中男壽王妃楊氏  
之美絕世無雙肌態豐豔曉音律云

かき返スアハルヲ云

かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

かき返スアハルヲ云

かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

かき返スアハルヲ云

かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云

かき返スアハルヲ云

かぢり四持之加者佛三密也持者三業也三密  
ヲ三業ニ持スルヲ四持ト云











